

明治学院広報

2019 年度 事業報告書



横浜キャンパス チャペル

学校法人 明治学院

2019年度を振り返って

学校法人 明治学院
理事長 山崎 雅男

2019年度の2月頃から新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大し、明治学院の教育・研究活動も大きな影響を受けているところです。明治学院は、米国人宣教師ヘボン博士が1863年（江戸時代末期の文久3年）に横浜の自宅に開設したヘボン塾を源流とするわが国の私立学校の中でも最も長い歴史を有する学校の一つであり、2019年には創立156周年を迎えました。創立以来のキリスト教に基づく人格教育を永く堅持し続け、今や1中学校、2高校、1大学（6学部16学科・7研究科12専攻）から成る総合的な学園に発展し、2019年度には14,285名（2019年5月1日現在）を数える生徒・学生を擁しつつ、教育・研究の向上に努めてまいりました。

2019年度を通じて学院の歩みを振り返ってみますと、明治学院の教育・研究に対する社会からの期待が確実に向上していると感じます。中でも2019年度に行われた事業について幾つの特筆すべきことがありました。

第一点は、明治学院に流れる教育理念を確認・発展させるため、「明治学院教育ビジョン」を策定して中学校、高校、大学が目指す生徒像、学生像を明らかにしてきました。小冊子「あなたの生き方が社会をつくる」（2019年版）を生徒・大学新入生および教職員に配布し、教育ビジョンの実行を目指した中高大教職員からなる5つの推進チームが第2期目の活動を展開しながら、それぞれのチームが中期計画（2020年度～2024年度）における行動目標を設定したうえで具体的取り組みに向かって積極的に活動してまいりました。

第二点は、2020年4月に施行された私立学校法の改正に伴い、学院寄附行為を改正し役員の職務と責任の明確化を図るとともに学院の中期計画の策定を行いました。大学でのMG DECADE VISIONの展開と、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づいた大学教育改革の実現に向けた教育目標が明確にされるとともに、大学長のリーダーシップの下に大学教学面において実効性と効果が発揮されました。

第三点は、大学においては2015年度から開始した「明治学院大学チャレンジ奨学金募金」を継続し、認定留学（長期）奨学金、白金の丘奨学金（首都圏以外の道府県出身者）、大学院奨学金で累計524名の学生に対して総額146百万円を支給することができました。そのため新たにインターネットからの申し込みや寄付者にとっての利便性を高め、寄付金応募件数は1,925件、応募金額は300,766千円となりました。

また4月から高校の新校舎建築募金を開始しました（目標額1億円 募集期限2022年7月末）。

第四点は、学院財政が健全に運営され、財政基盤が強化されつつあることです。各学校においても中・長期的観点からの施設・設備投資が行われましたが、一方で、収入確保や経費節減のために努力を重ねた結果、学院財政が一層健全化しました。大学奨学金拡充基金に1,000百万円組入れ（大学第3号基本金期末残高10,468百万円）、さらに学院が中・長期財政計画の目標としている経常収支差額比率は目標の10%以上を達成することができました。

次に各学校における具体的な事業内容の一部を挙げますと、大学におきましては、①MG DECADE VISION（推進期間2015年度～2024年度）は第一期前半の活動を統括し、2020年度から始まる後半のスタートができる体制を整備しました。5つの教育目標と親和性の高い3つの重点政策（グローバルマインド、ボランティアスピリッツ、キャリアデザイン）を見据えて、目標や評価指標の見直しを図りながら具体的活動を行いました。②大学院の活性化について、「入学前対応（院生の確保）」および「在籍者と修了生支援」に関してのとりまとめを行ったうえで具体的行動を開始しました。③グローバル教育の充実を図るため、新たに策定された「国際化ビジョン」の実現をめざして、留学受入プログラムおよび特色ある海外派遣プログラムの向上に取り組むことができました。④大学の学びのグローバル化を推進し、学部垣根を越えた学部・学科が連携した「内なる国際化」に対応する人材の育成（教養教育センター・社会学部が協働）、およびリベラルアーツ教育のためのMOOCs講座・ブレンド型反転授業（国際学部・社会福祉学科・英文学科が協働）の取り組みを行ってきました。⑤入学試験の改革を進め、英語外部検定試験利用型入試を利用した3,778名（前年度比728名増）の志願者を獲得しましたが、総志願者総数は23,480人、前年度比81.1%に留まりました。⑥2015年度大学基準協会において「適合」認定を受けた際に課題とされた事項について、「改善報告書」を提出するとともに、「内部質保証に関する方針」を定めて内部質保証体制の確立につなげました。⑦中・高・大が連携した海外ボランティア「パヤオプロジェクト」（タイ北部パヤオセンター）へ6名の教職員が現地視察を行いました。⑧キャリア教育・支援を充実させるため、キャリアセンターの相談体制の充実を図ることにより就職率の向上を図りました（実就職率91.5%）。⑨生涯学習分野において、「明治学院プラチナカレッジ」を白金校舎で開講、また港区から委託されている「チャレンジコミュニティ大学」や「みなと区民大学」などの地域連携事業を展開してまいりました。

高校では、2020年度新学期から仮設校舎にて授業を開始することになり、併せて旧校舎の解体に着手して2022年8月竣工を目指して新校舎建築が始まります。中学・東村山高校においては、中・長期の校舎整備および校地管理の計画に基づき、ライシャワー館の外壁修繕、中学棟3階のトイレ改修、校内無線LANの整備を行いました。

最後に、学校法人が所有する大型リードオルガン（1914年に米国の教会から寄贈された港区指定文化財）が港区の文化財保存事業に指定され、横田宗隆オルガン製作研究所のご尽力により完全修復されました。

報告の締め括りにあたり、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息をお祈りするとともに、2019年度中にいただきました学外の方々からのご支援と、教職員のご尽力に深く感謝申し上げます。これからも引き続き絶大なご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

第1章 学校法人明治学院の概要

1 明治学院の建学の精神と沿革	1
2 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・ 入学者数・収容定員・現員	2
3 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積	3
4 学生・生徒等納付金	4
5 設置する学校の役員数・評議員数・教職員数	6

第2章 2019年度事業の概要

1 法 人	
(1) 事業計画	8
(2) 事業計画の進捗状況	8
2 明治学院大学・大学院	
(1) 事業計画	17
(2) 事業計画の進捗状況	17
(3) 教育研究の概要	31
(4) 管理運営の概要	33
3 明治学院高等学校	
(1) 事業計画	34
(2) 事業計画の進捗状況	34
4 明治学院中学校・東村山高等学校	
(1) 事業計画	41
(2) 事業計画の進捗状況	41

第3章 2019年度財務の概要と経年比較〈2015年度～2019年度〉

1 財産目録	50
2 貸借対照表	51
3 資金収支計算書	52
4 活動区分資金収支計算書	53
5 事業活動収支計算書	54
6 財務比率検証	55
7 監事による監査報告書	56

第1章 学校法人明治学院の概要

1 明治学院の建学の精神と沿革

(1) 明治学院の建学の精神

学校法人明治学院の寄附行為には、「この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、福音主義のキリスト教に基づいて、教育事業を営営することを目的とする」（第3条第1項）と定められている。この法人の起源は、1863（文久3）年に米国人宣教医師ヘボン博士の横浜の住居に開設された「ヘボン塾」にあり、今日の1中学・2高校・大学（6学部 16学科）・大学院（7研究科 12専攻）を擁する総合的な学園にまで発展してきた156年の歩みを一貫して、「キリスト教に基づく人格教育」という建学の精神を堅持しつつ、わが国教育界に独自の寄与を果たしている。

(2) 明治学院の沿革

(年)	(年)	
1859	安政6	・10月 J.C. ヘボン博士神奈川到着、成仏寺に住まう
1863	文久3	・ヘボン博士横浜で英学塾を開設（ヘボン塾）
1877	明治10	・米国長老教会などの三ミッションは一致合同して東京一致神学校を創立
1880	明治13	・4月 ヘボン塾は築地明石町7番に移転し築地大学校と改称、J.C. バラ校長となる
1881	明治14	・横浜に先志学校（M.N. ワイコフ校長）を開く
1883	明治16	・築地大学校（J.C. バラ校長）と先志学校（M.N. ワイコフ校長）は合併して東京一致英和学校となる
1886	明治19	・4月 東京一致神学校・東京一致英和学校・同予備校の三校合併案成る ・6月 明治学院の名称決定 ・白金（現在地）に校地購入
1887	明治20	・1月 明治学院設置認可 ・校地を白金に移す
1889	明治22	・10月 ヘボン博士、明治学院初代総理に、井深梶之助副総理に就任
1890	明治23	・5月 インブリー事件（明治学院と一高との野球試合の際の事件）起こる
1891	明治24	・11月 井深梶之助第2代総理に就任
1898	明治31	・6月 普通学部を尋常中学部とする
1899	明治32	・8月 文部省訓令第12号が公布され学校内の宗教教育・儀式が禁止された。学院は臨時理事会を開き、宗教教育を維持するため他の基督教主義学校と共に文部省に交渉
1907	明治40	・島崎藤村作詞による校歌を制定（作曲 前田久八）
1911	明治44	・9月 ヘボン博士米国イースト・オレンジにて逝去
1916	大正5	・3月 ヴォーリス建築設計事務所設計による新礼拝堂献堂式挙行
1925	大正14	・4月 田川大吉郎第3代総理に就任
1930	昭和5	・神学部は学院から分離し、東京神学社と合併して日本神学校設立
1935	昭和10	・7月 総理を学院長と改称
1937	昭和12	・11月 島崎藤村自筆校歌碑建設
1949	昭和24	・明治学院大学設置認可 ・4月 大学文経学部開校
1951	昭和26	・3月 財団法人から学校法人に組織変更認可
1952	昭和27	・4月 中高分離 ・大学は文学部、経済学部の二学部に分離
1955	昭和30	・大学院文学研究科英文学専攻修士課程設置 ・東村山に校地購入
1962	昭和37	・4月 大学院文学研究科英文学専攻博士課程開設
1963	昭和38	・4月 東村山高等学校開校
1965	昭和40	・3月 中学講堂落成 ・4月 社会学部独立
1966	昭和41	・2月 白金礼拝堂にパイプオルガン設置 ・4月 中学、東村山に移転。大学法学部設置
1968	昭和43	・10月 大学で立看板撤去破壊事件起る（学園紛争の発端）
1977	昭和52	・『明治学院百年史』を刊行
1985	昭和60	・横浜校舎開校
1986	昭和61	・国際学部／国際学科設置
1989	平成1	・5月 テネシー明治学院高等部開校
1990	平成2	・文学部／芸術学科・心理学科、法学部／政治学科設置
1991	平成3	・高校、中学・東村山高校が男女共学に移行
1996	平成8	・経済学部／経営学科（商学科を改称）設置
1998	平成10	・1月 株式会社明治学院サービス設立 ・中学・東村山高校の新校舎完成
2000	平成12	・法学部／消費情報環境法学科設置
2002	平成14	・大学教養教育センター発足
2004	平成16	・心理学部／心理学科、法科大学院設置
2006	平成18	・経済学部／国際経営学科設置
2007	平成19	・芝浦工業大学と明治学院大学との交流・連携事業が開始 ・3月 テネシー明治学院高等部閉校
2008	平成20	・2月 礼拝堂の耐震補強と復元・改修工事が完成
2009	平成21	・3月 大学高輪校舎の献堂式 ・7月「日本近代音楽館」からの資料寄贈に関する合意書取り交し ・10月 新パイプオルガン奉献式（白金礼拝堂）
2010	平成22	・心理学部／教育発達学科設置
2011	平成23	・国際学部／国際キャリア学科設置 ・5月 明治学院大学図書館付属日本近代音楽館開館
2012	平成24	・3月 大学13号館の献堂式
2013	平成25	・12月 創立150周年記念礼拝 ・『明治学院百五十年史』を刊行
2015	平成27	・4月 大学院「法と経営学研究科」設置 ・12月 横浜校舎開校30周年記念式典
2016	平成28	・3月「明治学院教育ビジョン」策定 ・4月 大学院心理学研究科教育発達学専攻修士課程設置 ・11月 礼拝堂献堂100周年記念音楽礼拝
2017	平成29	・3月 法科大学院廃止
2018	平成30	・法学部／グローバル法学科設置

2 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・入学者数・収容定員・現員

(2019年5月1日現在)

学校名（所在地） 明治学院大学 （東京都港区白金台）	大学院 学 部	文学研究科 経済学研究科 社会学研究科 法学研究科 心理学研究科 法と経営学研究科 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の3・4年次 課程
（神奈川県横浜市戸塚区上倉田町）	大学院 学 部	国際学研究科 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の1・2年次 課程 国際学部

専攻・学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
大学院					
文学研究科		38	21	86	55
英文学専攻 博士（前期）課程	1955	10	4	20	11
英文学専攻 博士（後期）課程	1962	2	3	6	3
フランス文学専攻 博士（前期）課程	2000	8	6	16	15
フランス文学専攻 博士（後期）課程	2003	3	0	9	1
芸術学専攻 博士（前期）課程	2001	10	7	20	21
芸術学専攻 博士（後期）課程	2003	5	1	15	4
経済学研究科		16	3	38	6
経済学専攻 博士（前期）課程	1960	10	1	20	2
経済学専攻 博士（後期）課程	1989	3	1	9	1
経営学専攻 博士（後期）課程	1989	3	1	9	3
社会学研究科		25	4	55	23
社会学専攻 博士（前期）課程	1967	10	1	20	2
社会学専攻 博士（後期）課程	2006	2	0	6	2
社会福祉学専攻 博士（前期）課程	1960	10	3	20	12
社会福祉学専攻 博士（後期）課程	2006	3	0	9	7
法学研究科		5	0	15	1
法律学専攻 博士（後期）課程	1972	5	0	15	1
国際学研究科		12	2	26	4
国際学専攻 博士（前期）課程	1990	10	1	20	3
国際学専攻 博士（後期）課程	1992	2	1	6	1
心理学研究科		34	16	72	38
心理学専攻 博士（前期）課程	2004	20	11	40	24
心理学専攻 博士（後期）課程	2007	4	1	12	4
教育発達学専攻 修士課程	2016	10	4	20	10
法と経営学研究科		20	15	40	33
法と経営学専攻 修士課程	2015	20	15	40	33
大 学 院 計		150	61	332	160

専攻・学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
学 部					
文学部	1949	505	488	1,960	2,026
英文学科	1949	225	209	875	865
フランス文学科	1965	115	116	450	491
芸術学科	1990	165	163	635	670
経済学部	1949	690	599	2,680	2,774
経済学科	1949	325	289	1,265	1,329
経営学科	1952	210	183	810	831
国際経営学科	2006	155	127	605	614
社会学部	1949	490	454	1,955	2,081
社会学科	1949	265	228	1,025	1,049
社会福祉学科	1965	225	226	930	1,032
法学部	1966	645	603	2,465	2,555
法律学科	1966	200	179	900	905
消費情報環境法学科	2000	225	226	850	919
政治学科	1990	155	142	585	604
グローバル法学科	2018	65	56	130	127
国際学部	1986	300	289	1,170	1,277
国際学科	1986	245	235	955	1,034
国際キャリア学科	2011	55	54	215	243
心理学部	2004	320	300	1,250	1,260
心理学科	2004	175	169	685	708
教育発達学科	2010	145	131	565	552
学 部 計		2,950	2,733	11,480	11,973

学 校 名		開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
明治学院高等学校 (東京都港区白金台)	全日制課程	1948	333	320	1,000	952
明治学院東村山高等学校 (東京都東村山市富士見町)	全日制課程	1963	240	258	720	778
明治学院中学校 (東京都東村山市富士見町)		1947	140	145	420	422
合 計			713	723	2,140	2,152

3 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積

(単位：m²)

	所 在 地	使用部門	キャンパス面積	校舎面積
白金キャンパス	東京都港区白金台	大学院・大学・高校・法人	39,530	75,370
横浜キャンパス	神奈川県横浜市戸塚区上倉田町	大学院・大学	201,576	51,403
東村山キャンパス	東京都東村山市富士見町	中学・東村山高校	56,200	16,700
戸塚グラウンド	神奈川県横浜市戸塚区俣野町	大学院・大学	48,872	2,039
合 計			346,178	145,512

(2020年3月31日現在)

4 学生・生徒等納付金

＜大学学部（年額）＞

（単位：円）

学 科	1年次	2年次	3年次	4年次
	2019年度生	2018年度生	2017年度生	2016年度生
英文	1,263,150	1,056,100	1,056,100	1,081,100
フランス文	1,269,160	1,056,300	1,056,300	1,081,300
芸術	1,388,960	1,152,100	1,152,100	1,177,100
経済、経営	1,266,480	1,056,100	1,056,100	1,081,100
国際経営	1,486,480	1,076,100	1,076,100	1,226,100
社会、社会福祉	1,270,460	1,057,600	1,057,600	1,082,600
法律、消費情報環境法	1,293,960	1,069,100	1,069,100	1,094,100
グローバル法	1,531,780	1,091,100	—	—
政治	1,282,460	1,059,100	1,059,100	1,084,100
国際	1,335,400	1,113,100	1,113,100	1,134,100
国際キャリア	1,500,400	1,278,100	1,278,100	1,299,100
心理	1,343,460	1,118,100	1,118,100	1,143,100
教育発達	1,400,960	1,188,100	1,188,100	1,213,100

* 1年次は入学金200,000円を含む。

* 4年次は校友会終身会費40,000円を含む。

＜大学院（年額）＞

（単位：円）

博士前期課程・修士課程	1年次		2年次	3年次
	2019年度生		2018年度生	2017年度生
	本学卒・院修	他大卒		
英文学、芸術学、経済学、法と経営学	647,750	797,750	686,000	—
フランス文学	647,950	797,950	686,200	—
社会学、社会福祉学	649,250	799,250	687,500	—
社会福祉学（3年制コース）	480,100	630,100	477,500	517,500
国際学	650,750	800,750	689,000	—
心理学（心理学コース）	729,750	879,750	768,000	—
心理学（臨床心理学コース）	799,750	949,750	838,000	—
教育発達学	729,750	879,750	768,000	—

（単位：円）

博士後期課程	1年次		2年次	3年次
	2019年度生		2018年度生	2017年度生
	本学卒・院修	他大卒		
英文学、芸術学、経済学、経営学	648,600	798,600	646,000	686,000
フランス文学	648,800	798,800	646,200	686,200
社会学、社会福祉学	650,100	800,100	647,500	687,500
法律学、国際学	651,600	801,600	649,000	689,000
心理学	650,600	800,600	648,000	688,000

* 1年次の金額には他大卒の学生のみ入学金150,000円を含む。

（本学学部、本学博士前期課程・修士課程、専門職学位課程出身者の場合は入学金が免除）

* 最終年次に校友会終身会費40,000円を含む。（本学卒・本院卒で既に納入済の者は不要）

<高校・中学校（年額）>

(単位：円)

	1年次		2年次	3年次	
	移行生	他校出身		移行生	他校出身
明治学院高等学校	－	994,351	672,162	－	695,636
明治学院東村山高等学校	1,033,000	1,053,000	808,000	714,000	719,000
明治学院中学校	－	1,119,000	769,000	－	795,000

* 明治学院高等学校の1年次は入学金250,000円を含む。

* 明治学院東村山高等学校の1年次は入学金280,000円（移行生は260,000円）を含む。

* 明治学院中学校の1年次は入学金280,000円を含む。

5 設置する学校の役員数・評議員数・教職員数

(1) 役員

		定 員	現 員	氏 名
理事	常務理事	11名	11名	理事長 山崎 雅男 学院長 小暮 修也 秋山 智一郎 石川 理 石川 勝一 伊藤 節子 大海 龍生 永野 茂洋 松原 康雄 森野 光生 和田 道雄
	理 事 (常務理事を除く)	11～13名	13名	石川 謙 黒川 貞生 小滝 秀明 杉村 佐壽 高松 牧人 塚越 敏夫 西田 一郎 花島 光男 古田 和彦 本田 栄一 三宅 宣幸 湯沢 英彦 渡邊 充
	理事計	22～24名	24名	
監事		2～4名	2名	辻 泰一郎 永嶺 雄三

(2019年 5 月 1 日現在)

* 氏名50音順で記載

(2) 評議員

	45～49名	49名	藤掛 順一 他48名
--	--------	-----	------------

(2019年 5 月 1 日現在)

(3) 教職員

		中学校	東村山高等学校	高等学校	大学	法人	合計
常勤	教 員	0	0	0	280	0	280
	教 諭	21	35	46	0	0	102
	準 宣 教 師	0	0	1	0	0	1
	常 勤 講 師	0	2	0	0	0	2
	助 手	0	0	0	16	0	16
	副 手	0	0	0	2	0	2
	研 究 所 実 験 助 手	0	0	0	1	0	1
	職 員	1	6	6	166	8	187
	学 院 牧 師	0	0	0	0	1	1
	音 楽 主 任 者	0	0	0	0	1	1
	主 任 カ ウ ン セ ラ ー	0	0	0	2	0	2
	ボランティアクーディネーター	0	0	0	1	0	1
	主 任 教 学 補 佐	0	0	0	4	0	4
	教 学 補 佐	0	0	0	30	0	30
	特 別 嘱 託 職 員	0	0	2	12	0	14
	専 任 保 健 師	0	0	0	4	0	4
	障がい学生支援クーディネーター	0	0	0	4	0	4
	宗 教 部 主 任 職 員	0	0	0	1	0	1
	宗 教 部 常 勤 職 員	0	0	0	1	0	1
	特 別 契 約 助 手	0	0	0	1	0	1
	特 別 契 約 職 員	0	0	0	13	1	14
	常 勤 小 計	22	43	55	538	11	669
非常勤	客員教授・特命教授・非常勤講師	9	24	42	886	0	961
	客 員 研 究 員	0	0	0	1	0	1
	非 常 勤 嘱 託 職 員	0	0	0	35	0	35
	特別ティーチング・アシスタント	0	0	0	33	0	33
	ティーチング・アシスタント	0	0	0	28	0	28
	心理臨床センターカウンセラー	0	0	0	3	0	3
	心理臨床センターアシスタントカウンセラー	0	0	0	4	0	4
	ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー	1	1	1	0	0	3
	ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	0	0	0	1	0	1
	研 究 調 査 員	0	0	0	1	2	3
	非 常 勤 職 員	3	4	9	101	0	117
	非 常 勤 小 計	13	29	52	1,093	2	1,189
総 合 計		35	72	107	1,631	13	1,858

(2019年 5 月 1 日現在)

第2章 2019年度事業の概要

1 法人

(1) 事業計画

① 明治学院の教育

「明治学院一貫教育宣言」の理念に基づき、「明治学院教育ビジョン」が策定された。学院長を中心としたマネジメント体制を構築、中・高・大の連絡・連携を強化して、中・長期的な視点から明治学院の一貫教育体制を推進する。

② キリスト教活動

中・高・大を包括した全学院にまたがるキリスト教教育諸活動を推進する。

③ 「明治学院大学チャレンジ奨学金募金」の継続推進

大学での新奨学金制度を推進するため、目標額450百万円（募集期間2015年10月～2021年3月）を目指して募金活動に注力する。また、募金期間を2021年3月末まで1年間延長する。

④ ガバナンスとマネジメント体制の整備充実

理事会の下にある各種委員会をより有効に活用して、法人の意思決定、学院組織、人事制度等具体的な経営課題の解決に取り組む。2020年4月1日から施行される私立学校法の改正に伴い、寄附行為の改正と中期計画の作成を行う。

⑤ 明治学院の財政基盤の強化

学院の中長期財政計画に基づき一層の財政強化を図る。収入源の安定的確保に向けた諸方策を推進すると共に、支出の抑制と効率的配分に向けた施策を実施し、財政の健全化に努める。予算のPDCAを回し、収入に見合ったメリハリの利いた予算の効率的活用を推進する。

⑥ キャンパスの有効活用と施設・設備の整備

白金キャンパスは大学と高校が連携した整備計画を行い、高校校舎改築に向けて仮設校舎を建築する。

横浜キャンパスはキャンパスコンセプトに基づき横浜キャンパス整備計画をさらに推進する。

東村山キャンパスは中学棟、講堂棟、チャペルの整備計画を進める。

⑦ 危機管理体制への取り組み

各学校との防災連携、備蓄品の確保、行政との連携、非常安否確認システム登録の推進に取り組む。また、大学では非構造部材（天井）落下防止措置を実施する。

⑧ 教育・文化活動

明治学院歴史資料館での常設・企画展示会および講演会等を開催すると共に、学院歴史資料館の使命とビジョンを明確にする。またチャペルコンサートをシリーズとして開催する。

⑨ 株式会社明治学院サービスとの連携強化

明治学院の全額出資会社である株式会社明治学院サービス（1999年度に設立され21年目）は、学院、各学校と教育・研究活動に関する密接な連携を推進していく。2019年度は大学が推進する教育事業への係わりを強めると共に、学生団体の活動、卒業生サービス、就職支援についても連携を強化する。

(2) 事業計画の進捗状況

① 明治学院の教育

- (a) 2011年3月に「明治学院一貫教育宣言」を発信し、中学校、高校、大学を目指す生徒像、学生像を明らかにしつつ、明治学院に流れる共通の理念を確認した。2015年度には宣言の理念に基づき、「明治学院教育ビジョン」を策定し、その具体化に取り組んできた。

その教育ビジョンの内容を学生・生徒・勤務員に発信するために、冊子『あなたの生き方が社会をつくる—明治学院教育ビジョン』（2019年版）を新入大学生約3,000名、明治学院高校生約1,000名、明治学院中学・東村山高校生約1,200名、役員及び勤務員に配布した。

この「明治学院教育ビジョン」に基づき、具体的な計画と実行を目指す中高大の教職員からなる5つのチームを結成し、第二期の活動を実施した。

< 5つのチーム >

	チーム	目的
1	共通テキスト作成チーム	キリスト教教育の理念と実践の再構築 共通テキストの作成
2	キリスト教教育教職員研修チーム	キリスト教教育に関する教職員研修プログラムの企画
3	国際交流（留学）チーム	国際交流（留学）に関する高大接続

4	ボランティア教育連絡会議チーム	ボランティアの理念と課題共有 発達段階に合ったボランティアの研究開発
5	キャリア支援会議チーム	キャリア教育の課題共有 キャリア教育の方針策定

- 1) 中高大の共通テキスト作成チームにおいては、2019年4月に完成した『ヤバイぜ! 聖書 (バイブル)』の改訂作業を進め、ヘボン博士の生誕記念の地、小諸フィールドワーク等を加えた改訂版を発行した。このテキストは2019年4月から中高の「聖書」の授業や新入生ガイダンスで使用し、2020年4月からは大学の「キリスト教の基礎」の授業で使用できるよう準備を進めた。
- 2) キリスト教教育教職員研修チームは、勤務員キリスト教学校教育セミナーへの参加促進に加えて、新たにリトリート(黙想会)を企画実行し(参加者11名)、さらに勤務員に7年ごとにキリスト教行事へ招待する「キリスト教ふれあい年」の企画を進め、対象者に招待状を手渡した(対象者71名)。
- 3) 国際交流(留学)チームにおいては、高校生向け TOEFL 講座を開催し両系列校で35名が参加した。また、高大が連携して留学についての意識を高めるために、系列校の出身者が母校に帰って留学の意義を話す説明会を開いた(東村山高校出身明治学院大学生3名、参加高校生92名)。この取り組みは、高校生のみならず大学生にとっても自身の総括をする良い機会となった。
さらに明治学院高校の要請により、「総合学習—京都」の授業に大学交換留学生6名(オランダ2名、アメリカ、イギリス、ドイツ、フィリピン各1名)が参加し、交流を行った(参加高校生40名、うち高校への海外留学生2名を含む)。韓国から大学に受け入れた留学生4名が高2生の「総合学習—韓国」で研修授業に参加した(参加高校生37名)。
- 4) ボランティア教育連絡会議チームにおいては、「明治学院ボランティア一貫教育宣言」をまとめ、宣言に基づき、中高大連携海外ボランティア「パヤオプロジェクト」(タイ北部パヤオセンターへの訪問と交流)を企画し、8名の体制で8回の検討委員会を開き、2020年に学生・生徒を引率する準備として6名の教職員が現地視察を行った(2019年8月20日～8月25日)。
また、大学白金地域活動セクションの高大連携ボランティアとして、白金地域自治会主催「ふれあい運動会」に参加した(大学生14名、大学コーディネーター1名、高校教員1名)。
- 5) キャリア支援会議チームでは、2018年度に引き続き、発達段階の相違、課題の相違、学校の相違を踏まえつつ、明治学院としてキリスト教に基づくキャリア教育のあり方について議論を深めた。中学・東村山高校、高校、大学の取り組みは次の通りである。

(敬称略)

学校	回	テーマ	講師	参加者
明治学院中学校	1	カメラマンの仕事を通して伝えたいこと、プロフェッショナルとは	中條 未来	中3生133名
	2	児童福祉の現場から、現実を知ることの難しさと大切さ	早川 悟司	中3生130名
	3	弁護士であり小説家であるということ、「二刀流」のすすめ、正義とは何か	越智 敏裕	中3生134名
	4	プロ野球のドラフトを蹴って牧師になった理由、人のために生きるということ	安食 弘幸	中3生128名
明治学院 東村山高校	1	いのちの現場から	山口 礼子	高2生257名
	2	進路講演	矢野デビッド	高3生256名
	3	生きる～骨髄バンクの歩みを学ぶ～	大谷 貴子	高1生251名
明治学院高校	1	大学生による進路講演会	大学生9名	高3生344名
	2	社会人による進路講演会	卒業生3名	高2生324名
	3	明治学院大学を知る会・キャリアガイダンス	永野 茂洋	高1生319名

明治学院大学については、「内なる国際化プロジェクト」で身につく力の言語化に取り組んだ。具体的には、企業の人材要件と本学シラバスの分析、内なる国際化プロジェクト責任者へのインタビュー等を行い、多文化共生ファシリテーターの認証学生への認証式の際に言語化し

た内容を発表した。

- 6) 学院の一貫教育の重要な取り組みである学長プロジェクト J.C. バラ・プログラムについては、系列校の入学予定者が参加し、入学前教育を実施した（高校生126名、東村山高校生103名、計229名）。具体的には、礼拝、模擬授業（永野副学長）、学生企画1・アイスブレイク、学生企画2・グループワーキング、学生企画3・閉会式（落語研究会、アカペラサークルによるパフォーマンス）を実施した。

プロジェクトメンバー（大学生56名、職員5名）が協力して、系列校の学生が充実した大学生活を送れるよう取り組み、高校生からも高い評価があった〔高校生事後アンケート：「大変満足又は満足」・・・学生企画1→96%、学生企画2→94%、全体「先輩学生との交流は」大変充実又は充実96%（前年度93%）、「大学生活への期待度は」非常に高まった又は高まった91%（前年度88%）〕。

- 7) 明治学院の一貫教育の成果を高めるため、前年度に引き続き、大学が特 A 推薦・チャレンジ推薦を含めた系列校特別推薦入試を実施した。その結果、高校129名、東村山高校107名、計236名が明治学院大学に進学した。詳細は下記の通り。なお、一般受験して明治学院大学に合格した者は高校延べ5名、東村山高校3名であった。

年度\推薦	A 推薦	特 A 推薦 大学入学者	B 推薦	チャレンジ 推薦	計
2017年度高校	15	3	77	0	95
2018年度高校	34	1	96	1	132
2019年度高校	31	2	94	2	129
2017年度東村山高校	12	2	62	3	79
2018年度東村山高校	24	3	79	1	107
2019年度東村山高校	24	4	77	2	107

- 8) 東村山高校においては、2019年度より明治学院大学への進学希望者のための「アカデミック・リテラシー」の科目が「教養原論」として大学入学後に単位認定されることになった。大学教員の直接の講義で高校生がより学問的関心を持てるよう指導した（大学教員延べ14名、参加高校生92名）。この取り組みにより、明治学院大学への関心と理解がより一層深まった。

また、明治学院高校でも正課として「大学入門講座」を実施した（大学教員延べ4名、参加高校生30名）。

- (b) 明治学院記念館二階に設置されているメーソン & ハムリン社のリードオルガンは、1914年に A.K. ライシャワー教授（宣教師）の仲介でアメリカのハイド・パーク長老派教会および改革派教会から明治学院に寄贈された。そして、このリードオルガンは2015年に港区指定文化財（歴史資料）に指定され、2019年に港区文化財保存事業に選定され、専門家の手によって修復された。

また、このリードオルガンの来歴や修復作業についてまとめた冊子「明治学院とリードオルガン」（2019年11月）を発行した。今後は、貴重な教育文化遺産としてリードオルガンを活用していく。

- (c) 16～18世紀の工法を現代に再現した明治学院のパイプオルガンを維持管理していくために、外部の専門家を加えたオルガン管理運営委員会を設置した。この委員会では、主にオルガンの中長期の保守計画について協議し、この保守計画に基づいて、順次、実行していくこととした。

② キリスト教活動

- (a) 明治学院教育ビジョン共通テキスト作成チームが作成した『ヤバイぜ! 聖書（バイブル）』の改訂作業を進め、2019年4月からの中高での使用に加えて、2020年4月からの大学の「キリスト教の基礎」の授業等で使用できるよう準備を進めた（前記①明治学院の教育(a)1)を参照）。

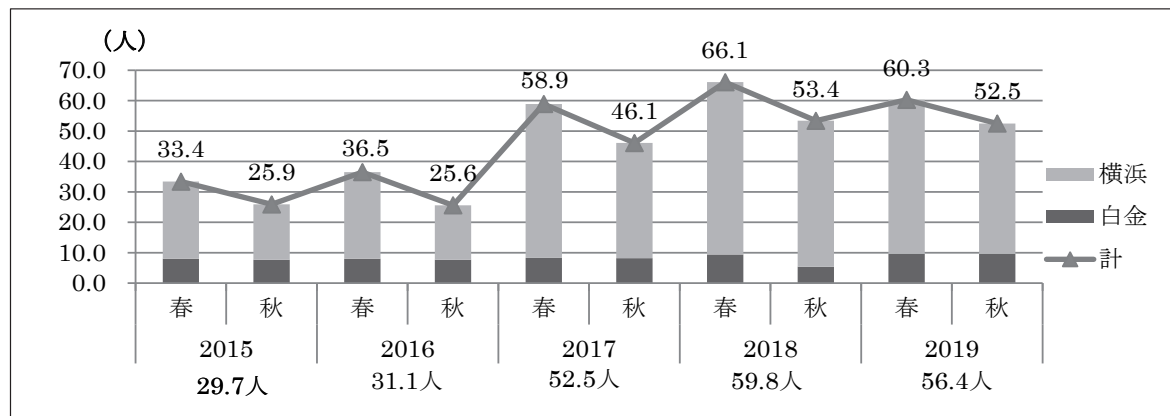
- (b) 2019年度も明治学院全体にわたり礼拝の充実に努力すること、特に大学チャペルアワーの活性化をはかり、白金・横浜合わせて少なくとも60人程度の学生がチャペルアワーに参加できるよう取り組むことを掲げた。

キリスト教の教員からの促し、学院牧師の働き、宗教部スタッフの指導、学生の主体的組織化等によって、大学チャペルアワー出席者は、2019年度春学期白金・横浜キャンパス合計60.3人（2018年度春学期66.1人）、2019年度秋学期同52.5人（2018年度秋学期53.4人）、2019年度年間平均56.4人（2018年度年間平均59.8人）となり、前年度より減少した。

前年度と比較してリピーターが少なくなったとの印象であるが、一方で学生が自主的に組織を作り活発な活動を行った。学生がチャペルアワーや横浜クリスマス音楽礼拝等へ積極的に参加したことや、MCM（明治学院チャペルメンバーズ）が日本聖書協会主催「聖書動画コンテ

スト」に「変わらない言葉を 変わりゆく世界に」というテーマで、ヘボン博士から現代まで続く明治学院のキリスト教精神をインタビュー形式で表現した作品で応募し、応募総数70点の中から作品賞を受賞したことは、明治学院大学の学生らしい取り組みである。

<大学チャペルアワーの学生出席者数（学期平均、人）>



- (c) 「学校法人明治学院年間主題聖句」は教職員のほか学生・生徒に対してもキリスト教の教えが伝わるように意識して選定した。

2019年度 明治学院 年間主題聖句

「愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。」
(エフェソの信徒への手紙 4章2節b～3節)

この聖句を多くの教職員や学生・生徒が意識できるように、入職式礼拝や「学院長だより」での紹介、礼拝奨励、学院正門掲示板及び学院ホームページ等で広く知らせた。また、明治学院高校、明治学院中学・東村山高校でも、入学式辞や学校のパンフレット等で紹介した。

- (d) 勤務員キリスト教学校教育セミナーは、中高大の勤務員が唯一集まれる大切な場として、新たに各学校から選ばれた委員が集まり、テーマや持ち方から話し合った。

その結果、「明治学院 私たちの新しい歩み方」という題を設定し、内田樹神戸女学院大学名誉教授の講演「祈ることと学ぶこと」を始め、アクティブラーニングの要素を入れた分科会を行った（全体参加85名、分科会参加59名）。セミナー委員の呼びかけ、講師や分科会テーマへの関心などで、充実したセミナーとなった。

<勤務員キリスト教学校教育セミナーテーマおよび参加者数>

(敬称略)

年度	テーマ（講師ほか）	参加者数
2017年度	宗教改革500年—現代にどのような意味があるのか（深井智朗）	78
2018年度	近代日本150年—私たちはどう考えるか（高橋源一郎）	90
2019年度	明治学院 私たちの新しい歩み方（内田樹）	85

- (e) 2019年度も日本基督教団東京教区南支区の諸教会や地域とのつながりを深めるため、第49回ペンテコステの集いを実施した（参加者132名）。例年のように南支区の合同聖歌隊は信仰にあふれた元気のよい讃美を、明治学院グレゴリーバンドは心に沁みる讃美を献げた。

席上献金は東京神学大学、日本聖書神学校、農村伝道神学校、東京聖書学校に送付した（合計98,075円）。また、集いの最後には、前年に引き続き、熊本・大分地震被害教会修復支援のために被災教会の牧師の子女で明治学院大学の学生が現状報告と募金を呼びかけ、日本基督教団九州教区の救援対策本部に義援金を送った（77,560円）。

クリスマス音楽礼拝は、参加者増に対応して、2013年度から2回に分けて実施してきた。2019年度出席者は合計710名であったが、平日であったため、比較的落ち着いた音楽礼拝ができた。今年度から「礼拝のすごし方」の案内を入れ、2020年度からは原則として12月23日に固定し2回とも未就学児も含めて出席できるようにした。

席上献金は学院と関係のある、アジア学院、一羔会、日本聾話学校、ライシャワー・クレマ学園、止揚学園、日本キリスト教海外医療協力会、チャイルド・ファンド・ジャパンに送金した（339,422円）。

- (f) キリスト教学校教育同盟関係では、事務職員夏期学校（新人研修）に9名（他に1名の実行委員）の職員を派遣し、キリスト教学校職員としてのあり方について他校の職員と共に豊かな研修の時を持った。また、第6回大学新任教員研修会の会場校としての働きを担った（2019年

8月31日～9月1日、学院2名、全参加者33名)。

なお、学院長が学内教職員講師派遣制度により平和学園(含アレセイア湘南中高)に出かけて講演を行い(2019年8月26日、全参加者82名)、さらに同盟教育研究担当常任理事として全国の研修会責任者としての役割を果たした。

- (g) 卒業生に対するキリスト教人格教育の一環として、白金チャペルで学院牧師・関係牧師の司式により、2019年度も16組の結婚式が挙行され、卒業生にもキリスト教教育を通じて母校とつながる機会を設けている。

③ 「明治学院大学チャレンジ奨学金募金」の継続推進

2015年10月より「明治学院大学チャレンジ奨学金募金」(目標額450百万円 募集期間2015年10月～2020年3月)を継続し、募集期間をさらに1年間延長(2021年3月)した。

2019年度は2回(9月、3月)に亘り「明治学院大学チャレンジ奨学金募金ニュース」を、卒業生、保証人、教職員等に送付し、募金の状況、奨学生の声などを定期的に発信し、この寄付によって奨学金を受給できた学生の状況(留学した学生数、大学院生の研究の状況など)をより詳細に伝えることにより、今後の募金への協力を訴えた。

また、2019年度より始まる高等学校の校舎改築事業の資金を充実させるため、「明治学院高等学校新校舎建築募金」を開始した。

- ・目標額: 100百万円
- ・募集期間: 2019年4月～2022年7月
- ・使途: 校舎改築、仮設校舎建築、本館・体育館の改修、新規設備・備品購入等
- ・募集対象: 教職員、法人役員、同窓生、企業・取引先

④ ガバナンス・マネジメント体制の整備充実

- (a) 2020年度入試(2019年度実施)は、学長のリーダーシップのもと各学部に対して適切な入学定員を確保するよう要請を行ったが、入学辞退者が多く出たため、最終的には158名の定員未充足となった。
- (b) 私立学校法改正に伴い、役員の職務および責任の明確化、監事機能の強化を明記した寄附行為改正を行い、評議員会の意見を聞き理事会の承認を得て中期計画を策定した。
- (c) 文部科学省による20年ぶりに行われた「学校法人運営調査」は、2020年2月に文部科学省において学校法人運営調査委員会が開かれレビューをして3月末に結論がだされ、特段の指摘はなかった。
- (d) 認証評価での指摘事項である内部質保証体制について、各種委員会を立ち上げて機能・役割を持たせ、適切有効な内部質保証体制を構築・維持するとともに各種規程を整備した。
- (e) 私立大学等改革総合支援事業については、申請したが採択には至らなかった。その結果、一般補助金の圧縮率により補助金が減額されることとなった。
- (f) 会計士監査、監事監査および理事会直轄の監査室の連携(三様監査)を強化した。監事監査では、私立学校法改正への対応、3ポリシーおよび自己評価システムを新たに追加した。

内部監査では、実施した主な監査項目結果(法人5件、大学12件(24項目)、高校5件、中学・東村山高校5件、計27件(39項目))について評価した結果、9割以上の項目に改善がみられたが、「引き続き注視する」とされた項目は、「情報公開に関する規程の整備」(法人)、「支援にあたるコーディネーター、職員の体制について」(大学)、「教員の働き方改革について」(中学・東村山高等学校)の3項目であった。

⑤ 明治学院の財政基盤の強化

- (a) 2020年度4月からスタートする「学校法人明治学院中期計画」において中期財政計画を作成し、2020年度～2024年度までの5年間の中期財政計画と目標を作成し、学院の教育事業が自主的に行えるよう財政面での担保を明確にした(詳細は「中期計画」参照)。

①基本金組入前当年度収支差額目標(正味財産)→85億円の増加を図る

②当年度収支差額目標→高校校舎建築(総費用53億円)を含め基本金組入後、△10億円に止める

③中期財政計画の数値目標→経常収支差額比率10%以上と当年度収支差額比率1%以上

- (b) 2019年度における中期財政目標の進捗管理

2019年度においても、単年度ベースでの経常収支の均衡を図るため、収入の確実な確保と新予算システムの稼働による支出の適正化を目指した。中期財政計画の目標としている①経常収支差額比率(経常収支差額÷経常収入)10%以上については13.3%、②当年度収支差額比率(当年度収支差額÷事業活動収入)1%以上については2.4%と超過達成することができた。

- (c) 第2号および第3号基本金の充実

2019年度において第2号基本金については、大学で500百万円、中学・東村山高校で19百万円の組み入れを行った。また大学での奨学金を拡充するため、「新たな大学第3号基本金」に

1,000百万円を組み入れ、充実を図った。

⑥ **キャンパスの有効活用と施設・設備の整備**

- (a) 大学 MG DECADE VISION の達成に向けて、学内の教育環境の整備に取り組むため横浜キャンパスは、ボランティアセンターの拡張工事を行った。白金キャンパスは、明治学院教育ビジョンおよび MG DECADE VISION アクションプランと連携した整備計画の検討を推進した。
- (b) 高校においては、仮設校舎の建設が完了し主機能の移転が完了した。また、今後20年間の収支計画および返済計画を策定した。
- (c) 中学・東村山高校においては、中学棟、講堂棟、チャペルの整備計画について構造面での検討を行った。また、老朽化が著しいライシャワー館の外壁改修工事や中学棟3階トイレ改修工事も完成した。法人・大学においては、明治学院教育ビジョンおよび MG DECADE VISION の達成に向けて、学内の教育・研究環境の整備に取り組んでいく。白金キャンパスは、高校と連携した「白金キャンパス・グランドデザイン」に基づく整備計画も合わせ検討し、横浜キャンパスは、課外活動施設（ヘボンフィールド）が手狭になっているため学外に同等の施設の確保を検討した。また同様に戸塚グラウンドの野球場についても検討を行った。

⑦ **危機管理体制への取り組み**

- (a) 学校法人明治学院災害対策総本部と各学校に設置される災害対策本部間の統括調整訓練を引き続き検討する。
- (b) 各学校において、災害時に必要となる基本備蓄品（水、食料の他、災害時必需品）の備蓄を維持し、一時避難所のほか帰宅困難者受入の際にも活用できるよう引き続き備蓄率向上に努める。
- (c) 白金キャンパスでは、高等学校建築期間における高校生の一時避難場所として、記念館前芝生を指定した。
- (d) 「白金高輪駅周辺滞留者対策推進協議会」など、各学校において、行政との基本連携協定等に基づく、地域の防災・防犯活動に積極的に参画した。
- (e) 各学校において、学生・生徒および教職員の非常安否確認システム登録を推進した。
- (f) 中期計画で実施している大学の非構造部材耐震対策工事（天井落下防止措置）は、施工が困難で先送りしていたエリアについて最新技術や施工業者の特殊技術等で対応が可能か検討し実施する。
- (g) 中期計画で実施している大学の耐震対策工事は、白金キャンパスでは本館南ウイングの2教室（1405・1406教室）とパレットゾーン白金のダイニングラウンジの天井落下防止措置を行い、また、2号館のエレベーター更新工事を行った。横浜キャンパスは、3号館の330教室と体育館の第2フロアの天井落下防止措置を行った。
- (h) 地震等に備えて教育と研究の環境を持続していくため、事業継続計画（Business Continuity Plan）の策定を引き続き検討する。

⑧ **教育・文化活動**

(a) **歴史資料館**

明治学院歴史資料館は、学院と学院の設置する諸学校の歴史に関する資料の収集および管理を行い、教育・研究の用に供することを目的としており、資料目録の整備、刊行物の発行、展示等の事業のほか、2015年度より所蔵資料のデジタルデータ化を推進している。

- 1) 2016年度から取り組みを開始した所蔵資料目録整備作業を2019年度も継続し、新たに3,000点の資料を目録化した。これにより、2016年度からの目録化資料数の累計は約8,200点となっている。あわせて、2019年度よりアーキビストによるコンサルティングを受け、作成された資料目録の体系化について検討を開始した。

- 2) 2019年11月9日（土）に青木祐介氏（横浜都市発展記念館副館長・主任調査研究員）をお招きし、明治学院歴史資料館講演会「洋風建築の声を聴く—明治学院の歴史的建造物を学ぶ—」を行なった（参加者54名）。

この講演会では「国の重要文化財」「港区指定有形文化財」に指定された白金キャンパスの歴史的建造物三棟について建築学的視点から解説を行なう講演とあわせてチャペル、インブリー館、記念館の現地見学をした。この講演会を通して、歴史的建造物三棟が、親密な距離の向かい合う現在の環境形成史を辿ることが出来た。

- 3) 以下の刊行物を発行した。

・『歴史資料館ニュースレター No.11』（2020年3月発行）

・『明治学院歴史資料館資料集 第16集 山田幸三記「二榎日記」（明治26年）「今里日記」（明治27年）』 翻字・解説・注 石崎康子（研究調査員）、松本智子（研究調査員）（2020年3月発行）

- 4) 展示室入場者数は次の通りであるが、オープンキャンパス時の入場者数が継続的に伸びて

いる。

年度\項目	明治学院 中学・高校授業 カリキュラム見学	春夏オープン キャンパス	文化財ウィーク	一般見学者	計
2018年度	約470名	約1,400名	約1,600名	約3,500名	約7,000名
2019年度	約300名 a)	約1,500名	約2,700名	約3,300名	約7,800名

a) 明治学院中学校生徒の見学は、2019年度には実施されなかった。

5) 継続的にこなっている文学部芸術学科科目「視聴覚教育メディア論」(博物館学芸員課程科目)への授業協力として、履修学生に対し歴史的建造物三棟の見学と所蔵資料解説、資料取り扱いの基本についてレクチャーを行った。

また2019年度は、明治学院共通科目「明治学院研究2」(宣教師研究)の授業協力として、歴史的建造物三棟の見学を行った。

6) 明治学院高等学校校舎改築に伴い、高等学校所蔵資料を歴史資料館で預かることになった(2023年7月末までの予定)。預かり期間中は資料保管のみでなく、資料デジタル化等有効活用に努め、学院の貴重資料の保全に努める。

(b) 明治学院チャペルコンサートシリーズ

2019年度は1回の演奏会を実施した。

2019年4月25日 ミシェル・ブヴァール オルガンリサイタル(ブヴァール氏はパリ音楽院教授・ヴェルサイユ宮廷礼拝堂オルガニスト)来場者408名

尚、2019年度後半より高校校舎建築工事が始まるため、本コンサートはしばらく休止することとした。

(c) リードオルガン演奏会

修復されたリードオルガンにより、11月2日の文化財ウィークに在学生、港区民、一般社会人を対象にした3回の演奏会を実施した(3回合計122名出席)。また、11月6日に港区関係者、学院勤務員対象の演奏会、12月18日に明治学院特別顧問対象の演奏会等を実施した。今後も、教育文化遺産としてのリードオルガンを利用して、チャペルアワーでの演奏会や学生、卒業生、港区民、一般社会人対象の演奏会を実施していく。

(d) オルガン講座

白金キャンパスのオルガン講座について、高校の受講者は高校礼拝・アドヴェント礼拝・高校PTA主催レクチャーコンサートで演奏を担当した。大学の受講生は大学チャペルアワー、クリスマスキャンドルライトサービスにおける奏楽(白金キャンパス)、大学オープンキャンパス、白金祭などで演奏を行った。中学生・高校生や大学生がパイプオルガンで奏楽を担当することは、受験生や在校生にとっても意欲を引き出す契機となっている。

年度\対象	中学生	高校生	大学生	大学院生	学院関係者 (含教職員)	学外者	合計
2018年度	0	12	16	0	3	9	40
2019年度	1	13	17	2	2	13	48

また、横浜キャンパスのオルガン講座については、学生・教職員・卒業生など、23名が受講した。

(e) 歴史的建造物の広報活動

学院の歴史的建造物の写真を用いた卓上カレンダー(2020年版)を作成した。また、東京都「東京文化財ウィーク特別公開」における一般公開への協力を11月1日から3日まで行った。

⑨ 株式会社明治学院サービスとの連携強化

(a) 学校法人明治学院の100%の出資会社としての株式会社明治学院サービスに対して、学院が行う教育・研究活動に関してさらなる密接な連携を図った。

2019年度は、「内なる国際化」プロジェクトの派遣、経済学部PCサポート・インターンシップコーディネーターの派遣、法学部の公務員セミナー事務室の運営、国家試験対策室の派遣、グローバル法学科の派遣、教養教育センターの派遣、心理学科の就活支援講座の開講等は継続して業務を委託し教育事業への関りを強化した。

(b) 学院財政への貢献

(単位千円)

学院への貢献内容 (定量面)	金額
寄付金 (大学、高校、中学・東村山高校の教育研究に要する経費への支援)	4,000
学院の収入増加への貢献 (*施設貸出収入、事務所家賃等)	130,822
学院関連団体 (学生団体、同窓会、へボン経済人会) への広告料	854
合計	135,676

*施設貸出利用者: 68団体、139件、利用者数123,021人 (大学、高校、中学・東村山高校)

*白金チャペル結婚式利用者: 16組、列席者755人

(c) 株式会社明治学院サービスの2019年度決算

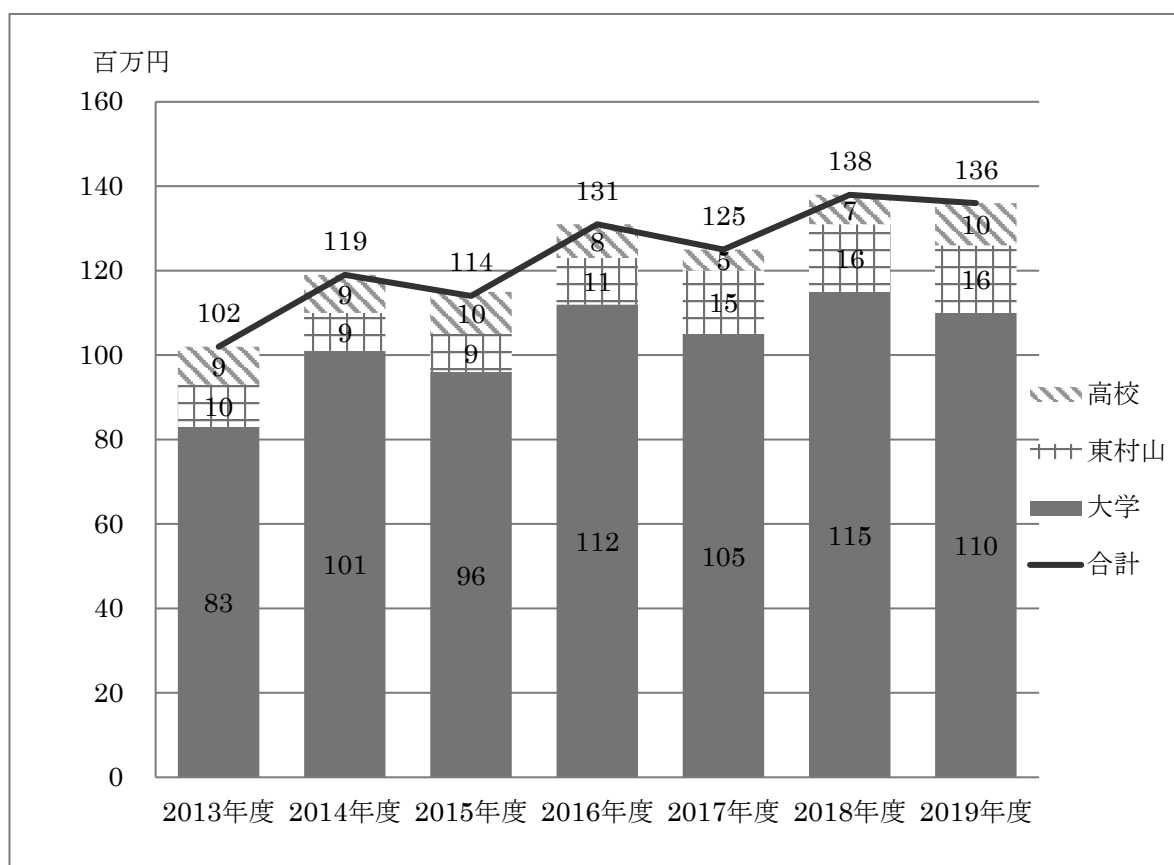
(単位千円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
売上高	964,584	981,262	825,734	859,153	840,291
経常利益	7,935	13,487	11,217	10,115	7,073
当期利益	6,799	8,870	7,620	7,352	4,883

(d) 大学・高校・中学・東村山高校の施設・設備貸出し

施設貸出は、各校との連携を強化し、優良団体との信頼関係の維持に努め学院の施設・設備使用料収入の増加に貢献した。

<施設貸出収入>



(e) 白金チャペル結婚式の運営を委託

明治学院結婚式は、明治学院関係者に対するキリスト教による人格教育の一環として行われ、2019年度は16組の挙式があった。

(f) 学院の文化活動として開催する「明治学院チャペルコンサートシリーズ」の一部業務、大学が港区と協働連携して開講する「チャレンジコミュニティ大学」の一部業務、修了生が組織するチャレンジコミュニティクラブ事務局の運営を引き続き委託した。

(g) 大学事務組織の変更・合理化への対応

白金・横浜キャンパスの「総合カウンター」は一部業務を拡大し委託。派遣手配業務は、学

内派遣社員の勤怠管理システムの変更に対応し、また次年度に向けて派遣社員の同一労働同一賃金に関する改正労働者派遣法（2020年4月施行）への対応を行った。

(h) 学生の住まいに関する支援

学生のアパート等紹介業務を委託、大学オープンキャンパスにも参加して、お部屋探しの相談から入居後のトラブルなどにも対応し一人暮らしの学生サポートを行った。

(i) 学生団体への活動支援

「明学スポーツを強くするプロジェクト（通称：スポーツプロジェクト）」監督・コーチ等の招聘指導者の管理業務を委託。「横浜キャンパスプロジェクト」「白金祭」「戸塚まつり」をはじめ学生が主体となり行う活動の協賛支援を受けた。また大学同窓会、ヘボン経済人会が学生のために行う活動、学生と共にを行う行事に対しても協力支援を受けた。

2 明治学院大学・大学院

(1) 事業計画

< 大学院 >

- ① 大学院の活性化
- ② 大学院広報の強化
- ③ 大学院生の研究環境整備

< 大学 >

- ① キリスト教教育
- ② 教育目標の明確化と教育改善
- ③ グローバル教育の充実
- ④ ボランティア活動の充実
- ⑤ キャリアサポート体制の充実
- ⑥ 広報活動の展開
- ⑦ 防災対策および環境問題への取り組み
- ⑧ その他の特記事項

(2) 事業計画の進捗状況

明治学院大学は、「キリスト教に基づく人格教育」を建学の精神とし、「Do for Others」（他者への貢献）を教育理念として研究・教育に邁進している。この教育理念のもとに、宗教部を中心とした学内外におけるキリスト教の活動と行事を通じて、学生・教職員に建学の精神を伝達すると同時に、全学的な人材育成像である5つの教育目標、すなわち、

- 1) 他者を理解できる人間の育成
- 2) 分析力と構想力を備えた人間の育成
- 3) コミュニケーション能力に富む人間の育成
- 4) キャリアをデザインできる人間の育成
- 5) 共に生きることのできる人間の育成

を掲げて、大学院・大学として研究・教育活動を遂行してきた。さらに、この5つの教育目標を具現化するための中長期ビジョンとしてMG DECADE VISIONを掲げ推進している。

< 大学院 >

① 大学院の活性化

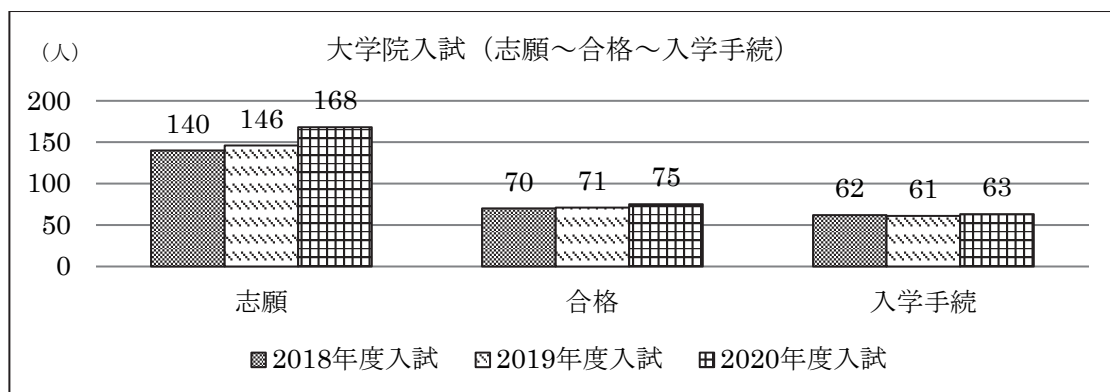
大学院の活性化については大学院委員会で議論を重ね、「入学前対応（院生の確保）」および「在籍者・修了生支援」について学長が理事会に向けて提言を行った。

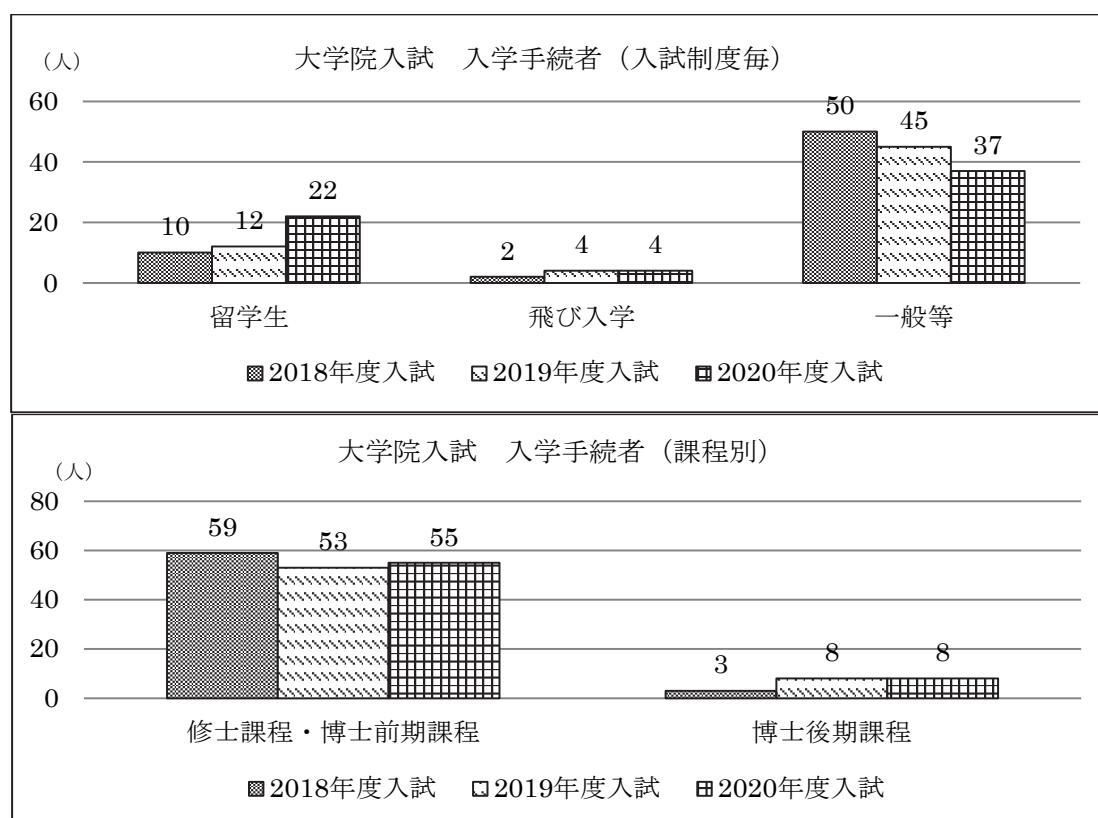
2019年度は博士後期課程を修了した5名（社会学専攻1名、社会福祉学専攻1名、心理学専攻3名）に博士の学位（課程博士）が授与された。また、修士課程・博士前期課程では全研究科合計54名に修士の学位が授与された。

2019年度に本学経済学研究科と対外経済貿易大学外国語学院（北京）との間で入試協定を締結し、経済学専攻（博士前期課程）において渡日前入試制度（10月出願、11月Skype入試）を新設した。

2020年3月末に大学院入学前教育として日本語講座（対象：外国人留学生）と研究倫理教育に関する講演会（対象：院生および入学予定者）の開催を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした。

< 大学院入試結果（2018年度～2020年度） >





② 大学院広報の強化

大学院志願者の増加を図る施策として大学院進学説明会を年6回開催し、合計168名の参加があった。横浜校舎では主に学部1、2年次生を対象に大学院進学ガイダンスを開催し17名の参加となった。また、法と経営学専攻は10月から12月にかけて6回にわたり学部生に対して授業を公開した。

MG DECADE VISIONのアクションプランに掲げている「外国人留学生の志願者・入学者の増加」を目指し、日本語能力試験（JLPT）のN1レベルの受験生獲得のため、国内外の進学相談会に積極的に参加した。国内では大学院進学実績の高い日本語学校に出向き、大学院説明会と法と経営学専攻教員による模擬授業を行った。国外ではJASSO主催の日本留学フェア（台湾、北京、上海）に参加し、本学の広報に努めた。台湾および北京会場については入試センター、国際キャリア学科と合同で参加した。

③ 大学院生の研究環境整備

学部生の教育補助業務を担うTA（ティーチング・アシスタント）制度を活用し、院生の研究環境の向上を図った。TA制度の利用実績は34名であった。

白金校舎へボン館の各専攻共同研究室（院生用の部屋）のノートパソコンを一斉更新した。また、大学院教室の視聴覚機器の更新も行い電子黒板等を設置した。

2019年度の本学独自の奨学金としては以下のものを用意した。

名 称	目 的	給付金額 給付人数	2019年度 給付人数	2019年度 執行額
明治学院大学出身 入学者支援奨学金 (チャレンジ奨学金)	初年度学納金 の負担軽減	初年度の年間授業料の30% 毎年度17名以内	16名 (申請者全員に給付)	2,448千円
明治学院大学大学院 成績優秀者特別奨学金 (チャレンジ奨学金)	学業の奨励	年間授業料の30% 毎年度25名以内	27名 ※ GPA 同率の者がいた ため (申請者：34名)	4,131千円
明治学院大学大学院 研究者養成奨学金 (チャレンジ奨学金)	学納金の負担軽 減 研究の奨励	年間授業料の30% 毎年度10名以内	4名 (申請者全員に給付)	612千円

小野國嗣基金奨学金	学業の奨励	助成額は、奨学金に関しては1件につき20万円を上限とし総額100万円を限度とする。 若干名	1名	125千円
明治学院大学大学院 国外留学生奨学金	学業の奨励	一律15万円 給付人数の規定無し	1名	150千円
合計			49名	7,466千円

<大学>

① キリスト教教育

チャペルアワーについては、大学ポータルサイトの利用に加え、告知場所をパレットゾーン（白金）、C館（横浜）に広げるなど学生への広報を強化した。出席者数としては減少（平均56.4人、2018年度比3.4人減）したが、学生による奨励の回数を増やしたほか、MCM（Meijigakuin Chapel's Members）の企画による礼拝を通じて、学生との緊密な協力関係の構築をすすめた。ヴェスパー（黙想の集い）は、20回開催し毎回およそ3～4名の学生が参加するなど学生の間で認知されつつある。

② 教育目標の明確化と教育改善

(a) 中長期ビジョン「MG DECADE VISION」の推進

中長期ビジョンであるMG DECADE VISIONについて、2019年度は前半5年間（2015-2019）の活動の検証を行った。また、後半5年間（2020-2024）に向けて、3つの重点政策（グローバルマインド・ボランティアスピリッツ・キャリアデザイン）にもとづいたアクションプランを策定し、その実現のための施策を事務局から公募し選定を行った。

(b) 教学改革支援制度の継続支援

本学のグローバル化を推進する学部学科が連携した以下の取組について、学長プロジェクトとして継続支援を行った。

1) 「内なる国際化」に対応した人材の育成（教養教育センター・社会学部が協働）

	申請者数	認定者数
サポーター	10名	9名
ファシリテーター	5名	4名

2) リベラルアーツ教育のための MOOCs 講座・ブレンド型反転授業の開発と実施（国際学部・社会福祉学科・英文学科が協働。学生の英語力強化を図る。）

2019年度履修者数 春学期86名 秋学期86名

(c) 特色ある教育プログラムへの財政支援

MG DECADE VISION のアクションプランと並行する形で、各学部や教養教育センターから提案された下記の特色ある教育プログラムに対し財政支援を行った（2019年度支援額は14,586千円）。

	プログラム名	実施内容
1	実験経済学・行動経済学プロジェクト強化（経済学部）	実験経済学・行動経済学を主軸に、従来の経済学教育に情報通信技術を積極的に取り入れ、学習者が自ら考え主体的に学ぶためのアクティブラーニングを取り入れた授業を展開した。
2	警察・消防チャレンジ支援プロジェクト（法学部）	国家試験対策室が中心となり、外部の予備校講師と連携しながら、警察行政職員・警察官・消防官をはじめとした公務員採用試験に在学中に合格できるよう支援を行った。2018年度生（2019年度に受験）は7割近い（25名中17名合格）合格率を達成することができた。
3	インバウンド・アウトバウンド学生の学習支援プロジェクト（国際学部）	正規留学生や複数の言語環境を背景とする学生（インバウンド学生）に対し修学支援を行うと共に、留学を希望する在校生（アウトバウンド学生）に対しては、目的意識の創出や適切な留学先選定のアドバイス、留学後の学修サポート等を行った。
4	座学とフィールドスタディを組み合わせた平和学短期講座（国際平和研究所）	広島・長崎へのフィールドワークを中心とした平和学講座を実施した。フィールドワークには、本学学生だけでなく、アメリカン大学、ジョージスクール（ペンシルバニア州のボーディングスクール）からの参加者もあり、貴重な交流の機会となった。

5	LLTS 持続可能な共生社会を目指すグローバルシチズンシップ涵養のための教育（教養教育センター） *LLTS: Learning to live together sustainably	グローバルシチズンシップを有した地球市民として、様々な社会問題に対処できる思考力・判断力を涵養するため、「グローバルシチズンシップ入門1・2」および「グローバルシチズンシップ各論1・2」を開講すると共に、映画上映会等を開催した。
---	--	--

(d) 全学展開プロジェクトの充実

ライティング支援カウンターについて、2019年度より運用を国際学部から教養教育センターに移管。横浜図書館2階パーチにて運用を開始し、学生のレポートや論文の書き方指導を行える環境を整えた。

(e) 教学改革推進本部会議の活性化

科目の順次性・体系性を示す、科目ナンバリングの制度設計を行った。2020年度入学生から提示を開始する。

(f) IR 機能（MISSION）の活用

入学時・在学中・卒業時の学生を対象とした「学生アンケート」について、2019年度は学籍番号・氏名を記入する形式で実施した。これにより、MISSION（本学における大学戦略構築のための経営情報システム）とのデータ結合が行えるようになり、学内で保有する各種データとの連関分析が可能となった。

分析については、担当教員3名を配置して専門的知見による分析に着手した。分析結果について、教職員対象の報告会を実施し、新たな見地の発見や今後どのように活用するか等について活発な意見交換が行われ、データ活用の機運が高まった。

MISSIONを活用した入学率予測システムを用いて、2019年度も、大学入試センター試験利用入学入試、一般入試（全学部日程）、A日程で予測を行った。

(g) 入試制度改革

2018年度に引き続き、高大接続改革の趣旨に沿って①各入試制度において「学力の3要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価できるよう改善を加える、②2020年度（2021年度入試）から実施される「大学入学共通テスト」を本学の入学者選抜に適した利用方法で採用する、の2点を中心に入試委員会で検討を重ね、新入試制度を決定した。

また、「MG箱根駅伝プロジェクト」における検討結果を踏まえ、2021年度入試から体育会陸上競技部（長距離ブロック）を対象として、高校を指定しない新たなスポーツ推薦制度を導入することになった。

さらに、主として系列校および連携推進校を対象とした高大接続プログラムの強化を継続し、高校と大学の連携によって志望度の高い意欲ある入学者の確保を実現した。こうした活動の成果を入試制度改革に活かす仕組み作りを今後も検討していく。

< 過去5年の志願・受験・合格推移 >

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
志願者数	25856	27396	32029	28947	23480
受験者数	25112	26545	31074	27760	22542
合格者数	9141	8696	6935	6443	6695
手続者数	2956	3205	2844	2725	2790
入学定員	2630	2950	2950	2950	2950
定員充足率（%）	112.4	108.6	96.4	92.4	94.6

* 編入、9月入学を除く

< 学外試験会場 受験者数 >

	会場	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	札幌	54	66	90	71	53
2	仙台	117	121	148	117	80

3	静岡	201	216	257	205	170
4	福岡	95	111	146	118	98
合計		467	514	641	511	401

(h) 自己点検・認証評価活動の継続

新たな大学評価の基準となる第三期の大学評価基準に適する体制の確立に向け、教育の内部質保証システム、大学運営・管理統括のための制度や権限・責任組織の確立が求められている。さらに内部質保証に関する大学としての方針の明示も求められていることから、2019年度にこれらの体制での運用と整備、方針の制定を行った。

具体的には、新たな大学基準に準拠した自己点検・評価項目で学内の各組織が点検を行い、その結果を学内の第三者による客観的評価を受けるピアレビュー評価を行った。この結果をもとに各組織および大学運営の現状について点検を行い、内部質保証を統括する委員会において、大学執行部自らの課題および各組織の課題について点検を行い、大学執行部および各組織に対し、改善事項について学長から指示を行った。

これら一連の内部質保証の取り組みに関する委員会となる「自己点検・評価委員会」、「ピアレビュー委員会」、「質保証統括委員会」、「質保証外部評価委員会」、「質保証企画委員会」を新たに設置し、基本方針となる「内部質保証に関する方針」を定め、規程および方針の制定等を行い、体制を整えた。2020年度以降も、引き続き、この体制の推進に取り組み、2022年度大学評価受審に向けた本格的な自己点検・評価および内部質保証体制の確立につなげていく。

なお、2019年度は、前回2015年度に受審した大学評価（認証評価）結果での指摘事項である「努力課題」の事項について、大学基準協会に改善報告書を提出した。大学基準協会による検討の結果、再度報告を求められる事項はなく、引き続き、改善項目の更なる対応を求めるという概評結果であった。

このほか、自己点検・評価活動の基礎データ収集を目的とした「学生アンケート」に加え「学習成果調査」を導入し、学生の身についた力について調査を行った。なお、本調査は、2019年度末の実施のため、分析等については2020年度となる。

また、2018年度に引き続き、適切な自己点検・評価の基礎となる有効な数値データを集約した「ファクトブック」を作成し全教職員への配布を行った。

(i) 学生への総合サポート体制の充実

総合支援室（心理相談、健康支援・修学支援）は、支援を必要とし希望する学生に対し、教職員や保証人とも連携し、多層的な支援を提供した。

1) 健康診断を中心とした健康管理の効率化による学生、教職員への健康支援（含危機管理）のさらなる充実

2018年度に引き続き、健康診断の効率化、将来的なペーパーレス化およびシステム化を検討した。学生健診では問診票の見直しを行い、教職員健診のシステムでは改修のほか的確な健康管理実施のための判定基準を更新した。職場巡視では危険業務を伴う箇所等の巡視を行い、衛生委員会で指摘事項を共有した。人事部を通じて改善報告を受けることとしている。

受動喫煙被害防止の観点から2019年度の改正法令、条例の施行により学内の喫煙場所を縮小した。喫煙者および非喫煙者に向けての啓発事業として呼気中のCO濃度測定会を春・秋学期に実施した。2019年度末に発生した新型コロナウイルス感染症に関して、危機管理の観点から従来より在庫確保に努めていたマスクやアルコール消毒器の入学試験等への活用、手洗いにに関する積極的な奨励、正しい方法の掲示などを行った。

2) 発達障がいを持つ学生・修得単位僅少学生への対応および就労等支援の充実

発達障がいのある学生への就労等支援として春・秋学期とも「就職活動支援講座」をそれぞれ9回実施した。具体的には春学期は就活オリエン、面接練習、ビジネススキル講座、職業体験、自己PR・志望動機作成等、秋学期は自己PR作成、志望動機の書き方、面接練習、ビジネススキル講座、仕事力を測る、職業体験（営業ゲーム）、キャリアプランニング等を行った。

3) 修学上の支援を必要とする学生に対する支援提供（合理的配慮を含む）および学内啓発の充実

ア 学生に対する支援提供

聴覚および視覚に障がいがあり支援を必要とする学生に対し、学外人材の協力を得て、授業における情報保障を中心に支援提供した。

イ 学内啓発の充実

ブックレット「支援を必要とする学生への修学支援について」および「聴覚に障がいのある学生への支援の手引き」を、2019年度に新規事業として採択されたコンテンツ配信システムに載せて配信した。ピアサポート（学生同士の支援）制度の一環で、学生サポートスタッフ（ノートテイク）の養成と登録学生数の増加を目的としたノートテイク講座、スキルアップ・復習講座、個別講習会等を実施した。学生サポートスタッフの登録学生数は74人（2018年度66人）と増加した。

ウ LGBT等（Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender および他のセクシュアリティを含む総称）学生への対応のためのガイドライン見直しと改善（大学院含む）

現行の「性同一性障害（性別違和）学生に対する支援に関する指針（ガイドライン）」を学内方針とするための検討に着手した。12月7日に「卒業生と一緒に 明学×LGBTQ* 知ろう＋学ぼう＋考えよう LGBTQと私たち」と題した学生向け啓発事業を実施した。

学外人材による専門相談窓口を継続して設置するとともに、LGBT等学生支援を充実させている早稲田大学の訪問調査を行った。

*Q: Questioning [性的指向・性自認が定まってない人]、Queer [性的少数者の総称]

(j) 課外活動への支援

1) 明学スポーツを強くするプロジェクト（通称：スポーツプロジェクト）への支援

同プロジェクトは、選定されたクラブを大学として支援するシステムであるが、大学における課外活動ということで、人間教育に主眼をおき、学生生活、学業成績においても模範になる学生の育成を第一としている。また、招聘指導者によるクラブの強化、ならびに一般学生、卒業生、父母が大学に対する帰属意識を高めることに繋げることも意図している。

2019年度は第5期の初年度であり、以下の戦績となった。

<スポーツプロジェクト団体戦績一覧表>

団体名	2019年度所属リーグ	2019年度（第5期1年目）戦績
アメリカンフットボール部	関東学生 アメリカンフットボール連盟	2部 Bブロック リーグ戦 2位（8大学中） ※1部入替戦に勝利し、1部（BIG8）に昇格
サッカー部	東京都大学 サッカー連盟	東京都1部 リーグ戦 2位（10大学中） ※昇格決定戦に勝利し、関東大学サッカー2部リーグに昇格
バスケットボール部（男子）	関東大学 バスケットボール連盟	3部 リーグ戦 10位（12大学中） ※4部入替戦に勝利し、3部残留
バスケットボール部（女子）	関東大学女子 バスケットボール連盟	2部 Bブロック リーグ戦 7位（8大学中） ※3部入替戦に敗れ、3部降格
バレーボール部（男子）	関東大学 バレーボール連盟	3部 Aグループ 春季リーグ 順位決定戦敗退 総合成績 3部10位（12大学中） 3部 Bグループ 秋季リーグ 順位決定戦勝利 総合成績 3部3位（12大学中）
野球部	首都大学野球連盟	2部 春季リーグ 6位（10大学中） 秋季リーグ 4位（10大学中）
ラグビー部	関東大学対抗戦	Bグループ 2位（8大学中） ※入替戦出場も昇格ならず
ラクロス部男子	日本ラクロス協会 関東学生ラクロスリーグ	2部 Aブロック リーグ戦 2位（6大学中） ※1部入替戦に勝利し、1部昇格

ラクロス部女子	日本ラクロス協会 関東学生ラクロスリーグ	2部 Bブロック リーグ戦 2位（6大学中） ※1部入替戦に勝利し、1部昇格
陸上競技部（長距離ブロック）	関東学生 陸上競技連盟	箱根駅伝予選会 24位（43大学中）

2) 課外活動プロジェクトの継続

課外活動としてのクラブ・サークル活動については、体育会36団体、文化団体連合会15団体（休部団体1含む）、応援団3団体、愛好会26団体、実行委員会3団体、任意団体26団体を公認団体として正式に認定し、活動を支援している。

また、公認団体に所属しない学生も含め、学生生活をより充実させることを目的とした全学生対象の課外講座を実施している。7年目となる2019年度も企業のCSRや教職員との連携により、21講座（延べ740名が参加）を実施し、参加学生の98.2%から「満足」という回答を得た。

3) 課外活動奨励賞

課外活動（スポーツ、文化芸術、社会貢献）における優秀な成績や活動の実績を顕彰し、今後の活動奨励を目的とする課外活動奨励賞を決定し表彰した。（個人賞8名、団体賞10団体）

(k) 学業支援（奨学金）の強化

1) 「平成30年7月豪雨」、「平成30年北海道胆振東部地震」、「平成30年8月30日からの大雨」、「令和元年8月の前線に伴う大雨」、「令和元年台風第19号」に係る被災者学費減免特別措置を実施。平成30年北海道胆振東部地震については学部学生1名に対して総額261千円を減免、令和元年台風第19号については学部学生4名に対し1,186千円を減免とした。なお、平成30年7月豪雨、平成30年8月30日からの大雨、令和元年8月の前線に伴う大雨については、減免該当者は発生しなかった。

2) 「カリキュラム留学生奨学金」の法学部グローバル法学科生への適用を開始した。

3) その他の学内奨学金制度実施状況

2019年度の本学独自の奨学金として以下のものを用意した。

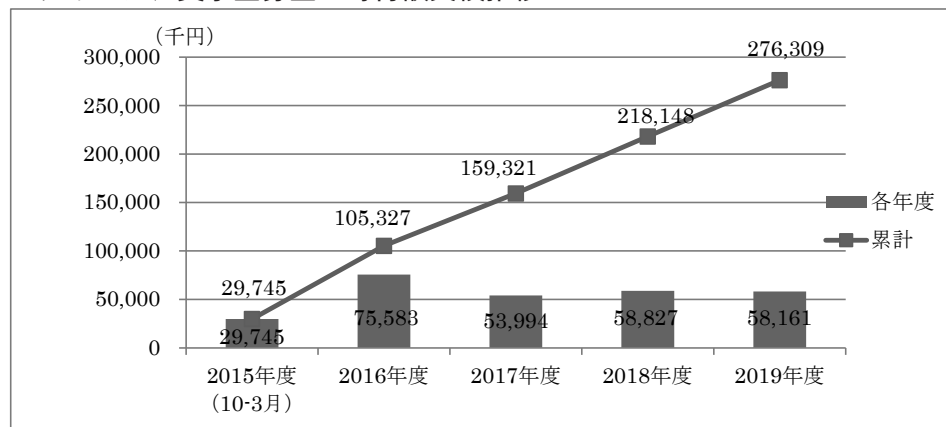
名 称	目 的	給付金額	2019年度 給付人数	2019年度 執行額
ヘボン給付奨学金	経済援助	年間授業料の半額に 年間施設費の半額を 加算した額を上限	延べ774名 (春学期361名、秋学 期413名)	総額 105,950千円 (内、明治学院大学 保証人会からの資金 援助額14,000千円)
認定留学（長期） 奨学金	学業奨励	2015年度生以前 200,000円 (給付は在学中1回 限り) 2016年度生以降 250,000円/学期 (ただし、一部の留 学プログラムについ ては金額が異なる。)	延べ230名 (春学期95名、秋学 期135名)	総額 69,302千円
カリキュラム留学生 奨学金	学業奨励	250,000円 (給付は在学中1回 限り)	186名 (EG生116名、JG生 70名)	総額 46,500千円
白金の丘奨学金	経済援助	200,000円/学期	59名 (内、1名が学業不 振につき、秋学期分 不支給)	総額 23,400千円

学業優秀賞	学業優秀者の表彰	250,000円 または 150,000円	66名	総額 14,100千円
外国人留学生 学業優秀賞	学業優秀者の表彰	150,000円	6名	総額 900千円
小野國嗣基金 (奨学金)	学業奨励	125,000円 ～60,000円	4名	総額 435千円
国際学部国際キャリア学科外国人留学生 優秀者奨学金	学業奨励	授業料・施設費・設備費・教育維持費の各学期に納入すべき額の総額から各学期の明治学院大学私費外国人留学生授業料減免相当額を除いた額	延べ25名 (春学期12名、秋学期13名)	総額 12,008千円
保証人会外国人 留学生奨学金	経済援助	年間授業料の半額を上限	20名	総額 2,000千円 (給付額全額、明治学院大学保証人会からの資金援助によるもの)
UNHCR 難民高等教育プログラムによる 学納金等の免除および奨学金	経済援助	入学金、春学期学納金等、秋学期学納金等全額免除および月額10万円を給付	2名 (内、1名が体調不良による休学につき、秋学期分不支給)	学納金等の免除 1,872千円 奨学金 1,800千円
明治学院ぶどうの木 奨学基金 (奨学金)	学業奨励 経済援助	300,000円 (自宅通学ができない者は500,000円を上限とする)	10名	総額 3,600千円
		合計	1,382名	281,867千円

4) チャレンジ奨学金の募金活動

2015年度より募金活動を開始し、目標額450,000千円に対して2020年3月31日現在で1925件300,766千円の応募があり、累計で276,309千円の寄付実績があった。2019年度奨学金受給者は、白金の丘奨学金（首都圏以外からの入学者への奨学金）59名、認定留学奨学金（認定留学（長期）希望者への支度金）229名、大学院奨学金47名であった。9月と3月に募金ニュースを発行し、校友や保証人等に対して募金を呼びかけた。顕彰として20万円以上の寄付者を対象に「明治学院礼拝堂ペーパークラフト」を配布した。募金期間について1年間延長し、2021年3月末までとした。

< チャレンジ奨学金募金の寄付額実績推移 >



(1) 一貫教育の充実と社会・地域への貢献

1) 教育ビジョンとの連携

教育ビジョン実行本部会議のもとに置かれている各プロジェクトチームに、国際センター、ボランティアセンター、キャリアセンターを中心とした教職員がメンバーとして参加し、教育ビジョンが掲げるアクションプラン実現に向けて検討を行った。

2) 白金キャンパスの所在する東京都港区とは、2019年度に13年目を迎えた「チャレンジコミュニティ大学」や「みなと区民大学」といった生涯学習分野のみならず、学生団体による高輪支所管内施設での発表などの新たな連携事業も展開した。また、島崎藤村ゆかりの長野県小諸市とは、本学社会学部および国際学部ゼミ生による小諸市での研究活動や、自治体推薦入試、クリスマスツリー点灯式への小諸市の小学生参加などの連携事業を進めた。そのほか白金校舎において開講している生涯学習講座「明治学院プラチナカレッジ」も2年目を迎え、港区民に限らず誰もが参加できる生涯学習環境を整えるなど、「社会・地域に開かれた大学」となるべく積極的な活動および情報発信を行った。

3) 2015年度より採択されている、文部科学省「知（地）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」については、本学は共愛学園前橋国際大学の申請に協力する形で参加している。事業最終年度5年目となった2019年度も、群馬県への就職者数を増加させる各種プロジェクトを展開した。

4) 横浜キャンパスにおける連携推進

ア 第22回戸塚まつりを開催（5月25日・26日）、約5,100名（2日間計）の来場者があった。地域との連携として倉田コミュニティハウスとの共催により豊田中学校と本学の吹奏楽部によるコンサートが開催された。

イ 小田急分譲地自治会からの要望に基づき、同町内会の防犯カメラ設置に協力した。本学（明治学院サービス）が取引する自販機メーカーによる地域防犯型自販機の仕組みを用い、本学の負担無く、同地区に防犯カメラ1台の設置を行った。

ウ 地域のイベント（夏祭、秋祭等）に司会進行役あるいは出演者として学生を派遣した。

エ 戸塚区と締結している「災害ボランティア活動拠点協定」に基づき、具体的な運用について行政側と検討を行った。

(m) MG オリンピック・パラリンピック支援プロジェクト

スポーツリテラシーの理念に基づき、2017年度から始まった本プロジェクトは順調に進んでおり、毎年メンバー募集を行い、現在まで延べ250名程の学生が活動している。2019年度は1年生から4年生までのメンバー83名が参加し、イベントを企画した。また、正課授業「オリンピック講座」と「パラリンピック講座」を引き続き開講した。

< オリンピック・パラリンピック講座履修者数推移 >

講座名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計（人）
現代世界と人間3 （オリンピックを考える） ※春学期開講	126	325	137	197	175	960
現代世界と人間6 （パラリンピックを考える） ※秋学期開講	—	—	160	179	200	539

< 活動・イベント >

活動内容の主なものは以下のとおり

- ・おもてなし講座（白金キャンパス）
- ・ゴミ拾いin渋谷区（渋谷区）
- ・ゴールボール体験会（旗の台文化センター）
- ・出張授業ボッチャ体験会（横浜市立品濃小学校）
- ・出張授業ゴールボール体験会（横浜市立港北小学校）
- ・1Day For Others おもてなし講座 & 観光案内ボランティア（白金キャンパス、品川駅周辺）
- ・講演会「想いをつなぐー東京2020大会 そして未来へー」（みなとパーク芝浦）
- ・海岸清掃 in 茅ヶ崎（茅ヶ崎市）
- ・パナソニックセンター見学会（パナソニックセンター）
- ・ブラインドサッカー体験会（横浜市立生麦小学校）

なお、活動については大学ウェブサイトにも専用のページ（「東京オリンピック・パラリンピックに向けて」）を設け、情報発信を行っている。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/campuslife/mgolympicparalympic/>

③ グローバル教育の充実

新たに策定された「国際化ビジョン」の実現を目指して、以下の取り組みを行った。

(a) 留学受入プログラムの質の向上と広報の強化

海外からの留学生を対象とした開講科目を体系化して、複数の分野からまんべんなく科目を選択できるようにした。協定校向けの広報としては、本学への留学の魅力を伝えるパンフレットを作成した。中国や韓国などアジアの国々からの留学生を短期で受け入れるプログラムの開催は、新型コロナウイルスの感染拡大により中止した。

(b) 特色ある海外派遣プログラムの提供

国際貢献やグローバルビジネスのインターンシップ留学の全学的な推進を行った。具体的には国連ユースボランティアに加えて、シンガポールやカンボジアへの NPO や NGO へ認定留学制度を利用して留学できる学生を増やし、UNICEF と学生派遣の協定を締結した。

さらに、本学は、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに自発的に取り組む「国連グローバル・コンパクト」に参加しており、国連の提唱する「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を学生が意識できるスタディ・ツアーを例年のベトナムに加えて、新たにインドにおいても実施した。

(c) 派遣学生への支援体制の強化

外国語のコミュニケーション・アカデミック・スキルの習得、海外インターンシップに参加するための準備講座に加えて、ビザの取得等も含めた専門的なアドバイジングを導入し、学生がより高いレベルの留学準備ができるように支援した。

(d) UNHCR 難民高等教育プログラムの継続

UNHCR 難民高等教育プログラムに基づき、2018年4月から毎年度各1名ずつを受け入れた。

④ ボランティア活動の充実

(a) 学生ボランティア活動の参加促進

1日社会貢献プログラム「1 Day for Others」として82のプログラムを企画し、622名が参加した。また、新たな制度として、本学学生自らが感じた社会課題を解決するための活動支援制度として「いつでもボランティアチャレンジ」を立ち上げ、6企画に対して助成した。

(b) 被災地支援活動の継続

東日本大震災復興支援プログラム「Do for Smile@ 東日本」プロジェクトにおいて、岩手県陸前高田市および連携協定に基づいた活動を行う岩手県大槌町での支援活動に58名が参加した。大槌町での活動に関わった学生が地域住民の声を集めた冊子「吉里吉里から」Vol.3を作成した。

(c) 日本赤十字社との共同宣言に基づいて、日本赤十字社本部と連携し、赤十字ボランティア情報誌（RCV）の編集委員の派遣、学内献血時の献血促進呼び掛けなどを行った。

⑤ キャリアサポート体制の充実

(a) 2019年度就職・求人状況

【就職実績上位】(2020年 5 月 1 日現在)

	企業名	男	女	合計
1	横浜市教育委員会	3	17	20
2	東京都教育委員会	4	14	18
2	横浜役所	2	16	18
4	(株) エイチ・アイ・エス	2	15	17
5	あいおいニッセイ同和損害保険 (株)	5	8	13
5	(株) JAL スカイ	1	12	13
5	日本航空 (株)	1	12	13
8	第一生命保険 (株)	3	9	12
9	日本郵便 (株)	1	10	11
9	日本生命保険 (相)	2	9	11
11	全日本空輸 (株)	0	10	10
11	(株) 星野リゾート	0	10	10
11	三井不動産リアルティ (株)	5	5	10
14	ANA エアポートサービス (株)	0	9	9
14	千葉県教育委員会	0	9	9
16	JTB グループ	2	6	8
16	住友不動産販売 (株)	2	6	8
16	羽田空港サービス (株)	0	8	8
16	東日本旅客鉄道 (株)	2	6	8
16	明治安田生命保険 (相)	1	7	8
16	りそなグループ	1	7	8
合計		37	205	242

求人件数	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
	9,609	9,773	12,259	28,562	21,185

※2017年度以降の求人件数の増加について求人紹介システム（キャリアス UC）の仕様変更に伴い、企業・団体の求人配布が簡素化したことによる。

※2019年度の求人件数については、就職活動の早期化および短期化に伴い、1社あたりの求人件数が減少。

(b) MG DECADE VISION アクションプラン（2019年度）に基づく取り組み

1) 教育・支援プログラムの充実

キャリア教育においては、教養教育センター、キャリアセンター、ヘボン経済人会3者の協力による新たな授業科目「キャリアデザイン2」開講の準備が行われた。また、就職支援においては、キャリア支援課が主催して年間800を越える支援プログラムが行われた（教職センター主催の教員採用試験のための課外講座、公務員セミナー、学部主催の就職支援講座、資格支援講座を含まず）。

2) 相談体制の充実

2018年度のキャリアセンター（白金・横浜・教育キャリア支援課）の窓口来訪件数は19,337件であったが、2019年度は19,627件となり、年度末に新型コロナウイルスの影響下にあったにもかかわらず微増した。また、10月31日に、日本キャリア開発協会（JCDA）派遣の講師による職員・相談業務研修を実施し、相談の質的充実を図った。

3) 学外連携

学外団体と以下の連携を行った。また、2019年度は大学として宮城県と U・I ターン就職支援に関する協定を締結した。

団体名	内容
東京新卒応援ハローワーク (厚生労働省)	通年で毎週水曜午後に白金キャンパスに相談員（ジョブサポーター）が派遣され、相談業務およびハローワークが保有する求人紹介の業務にあたった。
東京外国人雇用サービスセンター（厚生労働省）	年間11回にわたり相談員が白金キャンパスに派遣され、全学部・研究科の外国人留学生を対象に就職相談を行った。（利用者のべ19名）
ハローワーク戸塚 (厚生労働省)	相談員が横浜キャンパスに派遣され年2回の相談会を行った。
新卒応援ハローワーク横浜 (厚生労働省)	職業興味検査と結果解説講座を横浜キャンパスにて年2回実施した。
東京しごとセンター (東京都)	2019年度は65名の学生が利用登録を行い、2018年同時期より12名増となった。また、同センターの講師によるグループディスカッション、面接のトレーニングが14回行われた。
ホテル白金会	2020年1月15日にホテル白金会協力のもと、6人のホテル業界で働く本学卒業生が白金キャンパスを訪れ、同業界を志望する本学学生34名と交流会を行った。
ヘボン経済人会	2019年度は、ヘボン経済人会会員が正課授業の1コマで講演を行う「ヘボン経済人会出張講座」の取組が始まった。法学部と国際学部の教員各1名から希望があり、いずれも3年次のゼミ生を対象に講演が行われた。
東京経営者協会	10月29日に行われた「採用・就職担当者のための産学交流会」にキャリアセンター職員が出席し、同協会会員企業との関係構築を図った。また、12月16日には「会員大学代表者と同協会役員等による懇談会」が行われ、本学からは副学長が出席した。
東京商工会議所	同会議所が主催する企業体験プログラム「東商リレーションシップ・プログラム」に年間を通じ21名の本学学生が参加した。

⑥ 広報活動の展開

- (a) 教育理念“Do for Others”の実践など具体的な事例を発信し、明治学院大学の特色・魅力を国内外に伝え、社会的な存在価値（ブランド力）を際立たせるため、シンボルロゴやコーポレートカラーを用いた統一的なイメージのもと広報を展開した。

また、中長期ビジョン「MG DECADE VISION」（2015～2024）の3つの重点的取組みにおいて、「グローバルマインド」については、グローバル法学科を紹介する情報発信を多く行い、『内なる国際化』に関する広報活動にも力を入れた。「ボランティアスピリッツ」については白金通信で毎号、活動を紹介し学内周知に努めるとともに、ホームページ改修に取り組むことで発信力の強化を目指した。「キャリアデザイン」については、『ヘボン・エアラインクラス』や卒業生組織『ヘボン経済人会』の取組みなどを伝えることで、他大学との差別化を図った。

- (b) ソーシャルメディアについては、在学生、高校低学年層を含めた10～20代の若年層をメインターゲットとし、ソーシャルメディア運用支援会社によるサポートを継続して活用した。

年間を通じて安定した投稿を心がけ、フォロワー数は着実に増加した。2020年3月には「卒業式中止のお知らせ」（Twitter）の投稿の閲覧数が卒業生とほぼ同数の約3,000となり、在学生向けのメディアとしても一定の効果を果たした。

また、ソーシャルメディア運用支援会社と共に実施する効果測定ミーティング（3か月毎に実施）にSNSを運用する他部署の担当者を招き、ノウハウの共有を図った。

動画については、Twitter、Instagram、YouTubeの広告出稿を活用し、大学オフィシャルムービー「明学の理由。」の再生回数向上に注力した。2019年度に制作した「学びを究める編。」「世界とつながる編。」「ブランドムービー2019」はいずれも視聴回数400,000回を越え、2018年度に制作した「ブランドムービー2018」の視聴回数256,082回を大幅に上回った。

特筆すべきこととして、2019年10月に公開された日経BPコンサルティングの「全国大学サイト・ユーザビリティ調査」では、スマートフォン評価調査において全国260校中、第4位（昨年と同順位）となり、モバイルファースト対応では十分な成果を出している。

- (c) 全学的な広報リスクの恐れがある案件についてはサポート業者に都度相談し、ブランドイメージを低下させないように努めた。
- (d) 大学のブランディング充実の一環として、本学の特色や教育・研究等の取り組みを学外に発信することに力を入れた。プレスリリース方法をFAX利用からプレスリリース配信サポート会社のオンラインに主軸を移すとともに、SNS等での情報配信も強化した。

新型コロナウイルス感染防止対策の一環で、年度末に、卒業式と入学式の学長・学院長挨拶や学科ガイダンス等の動画を撮影した。今後、学内でこの動画の周知に努め、インナーコミュニケーションの充実を図っていく。

⑦ 防災対策および環境問題への取り組み

(a) 防災対策

白金、横浜両キャンパスとも、継続して以下の対策を進めた。

- 1) 防災備蓄品の新規購入および更新（特に横浜キャンパスでは備蓄食の補充および災害用トイレ薬剤の更新）。エレベーターが停止した際に歩行困難な人を降ろす階段避難車を両キャンパスに設置。
- 2) AEDについては大学施設内設置（高輪校舎を含む）と学生課外活動団体貸出用のほか、戸塚グラウンド黎明館、鵜の木グラウンドクラブハウス、MG 奥沢ハウス、国際会館にも設置している。
- 3) キャンパスごとの防災訓練を定期的実施した。白金では高輪消防署の協力による通報・避難誘導・初期消火の訓練、煙の中の避難体験、VR 防災体験車、AED を含む救護訓練等を実施した。横浜では防災の日（9月1日）に『かながわシェイクアウト（いっせい防災行動訓練）』を実施するとともに、上階から歩行困難者を地上階に降ろす訓練も実施した。
- 4) 地域貢献として、白金キャンパスでは災害時の白金高輪駅周辺滞留者対策推進協議会の検討会議や訓練に参加し、帰宅困難者・滞留者等の受入れ施設として機能するよう検討した。横浜キャンパスでは、行政・近隣自治会と発災時の協力体制等について協議を行った。また近隣自治会の防災訓練に学生を派遣した。
- 5) 非構造部材（天井材等）の落下防止措置を順次着手しており、白金キャンパスでは本館の2教室とパレットゾーン白金のダイニングラウンジの工事が完了した。

横浜キャンパスにおいては3号館の1教室と体育館第2アリーナの工事が完了した。なお、施工（工法および工程上）困難エリアについては有効な手段が見出せず継続検討とした。

(b) 環境問題への取り組み

エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）および東京都地球温暖化対策計画（CO₂削減計画）に基づき計画的にCO₂削減を進めており、2019年度はLED 照明更新工事を白金キャンパスでは本館の3階から5階の共用部と9階事務室の一部、地下1階パソコン教室の一部、および、パレットゾーン白金のダイニングラウンジとその周囲を施工。横浜キャンパスでは3号館の1教室を施工した。

また、トイレ改修工事では節水型器具を採用して、白金キャンパスでは本館南側中央部の3階から5階と10階を施工した。なお、春工事でパレットゾーン白金の1階多機能トイレを施工したが、新型コロナウイルスの関係で衛生陶器の一部が納期未定となり工期を延長して完成させた。横浜キャンパスでは5号館南側の1階から4階とチャペルを施工した。

2015年度に横浜キャンパスで完成した自律（自立）型エネルギーの設備において設置した太陽光パネルでは2019年度の1年間で約113,422kw/年の発電があり、雨水・井水の利用で477m³/年の節水となり環境負荷の低減と省エネに寄与している。白金キャンパスにおいても雨水の利用で5,127m³/年の節水となっている。

⑧ その他の特記事項

(a) 横浜キャンパスプロジェクトの推進

MG DECADE VISION アクションプランと連携した「横浜キャンパスプロジェクト」を推進し、学生成長の機会を提供した。それぞれの活動グループによる主たる活動は以下のとおり。

アクションプラン	2019年度プロジェクト等	2019年度事業報告
横浜校舎における学生満足度の向上	飲食環境の充実プロジェクト ＜通称：ごはん部＞	ア 学生の飲食環境充実のため、新たにキッチンカー業者3社を追加し、全12社で運用した。 イ 生協食堂売上は対2018年度比1.05倍、インターナショナルカフェ売上は対2018年度比1.02倍といずれも売上増となった。
	学バス運行計画	これまでの継続交渉により、行政（戸塚区役所）から戸塚駅東口に江ノ電バス（路線バス）の本学行急行バスのバス停設置の提案を受けた。 現在、行政にて近隣住民からの理解を得るための交渉を開始、その後、行政・江ノ電バス・本学の三者による具体的な協議を行うこととなった。なお急行バスへの特割定期券の導入について江ノ電バスと交渉を行っている。
	プレ大学生交流プロジェクト (J.C. バラ・プログラム)	2020年2月25日開催。明治学院高校126名、明治学院東村山高校103名の計229名、学生スタッフは56名参加となった。 SDGsを共通テーマに設定し、模擬授業および高校生グループ単位でのディスカッション・プレゼンテーションを行った。約91%の高校生から大学生活への期待が高まったとのアンケート結果を得た（2018年度約88%）。
	ピアサポートプロジェクト（キャンパスコンシェルジュ）	学生による学生のサポート（ピア・サポート）として学生相談を行った（相談件数：3,177件）。それ以外に以下の取組を行った。 ア コンシェルジュ独自企画の開催等 「オンデマンドプリント講座」「新入生向茶話会」「学生プレゼンテーション企画」「横浜キャンパス MG グルメコンテスト」等開催。戸塚まつりへの企画参加。 イ 教職員連携・他大学との交流 a. 他大学（県立広島大学・城西大学・高崎商科大学・獨協大学）からの依頼を受け、各校教職員・学生とコンシェルジュによる意見交換を実施。成城大学と定期交流も行った。 b. 外部セミナーでの講演：内田洋行・大学・高校実践ソリューションセミナー他
ピアサポートによるキャンパス活性化の推進	ヤギ除草システムプロジェクト ＜通称：ヤギ部＞	春学期2頭、秋学期は3頭のヤギにて除草を実施。除草範囲をA館下築山から緑の丘とした。
	エコキャンパスうちわコンテスト	上位入賞した3作品をうちわとして作成。横浜キャンパス内に8箇所のうちわステーションを設置し、学生がシェア利用できるようにした。

「社会貢献」活動実施とそのイメージ定着	スポーツ GOMI 拾い大会	一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブとの共催による第7回「スポーツ GOMI 拾い大会」を横浜学生課、ボランティアセンターと協力し開催。 近隣住民、本学学生そして職員による28チームが参加し、約100kgのゴミを収集した。
	横浜キャンパスチャリティライブ開催	戸塚まつりにおいて、学生団体（ハロプロ研究会）と共催でチャリティライブを開催。また白金祭でのトークイベント、クリスマスチャペルコンサートもチャリティイベントとして開催、募金額は総額304,432円となった。 寄付金のうち、267,432円はボランティアセンターの学生の活動資金とし、37,000円は宗教部へのクリスマス献金とした。

(b) 職員研修制度

スタッフ・ディベロップメント（SD）の実施に関しては、これまで未実施であった教員向けのSDとして、教員役職者を対象とした研修を実施した。

日 時：2019年10月23日（水）15：00～16：30

場 所：白金キャンパス本館 2 階1255教室

講 師：島田陽一氏（早稲田大学法学学術院教授）

テーマ：教員の働き方改革を通じた大学教育・研究・経営の質向上

内 容：1. 働き方改革が求められる背景
2. 働き方改革関連法と大学教員
3. 大学教員の働き方改革を推進するために

参加者数：63名（教員役職者49名、法人理事・監事 5 名、職員部次長 9 名）

また、職員向けの研修は、「各部署の業務課題と解決策の共有」をテーマに職員全体研修を実施したほか、職能資格別研修として主事を対象としたグループワーク研修に7名が参加し、主事補を対象とした自校分析レポート研修に12名が参加した。また、日本私立大学連盟主催のアドミニストレーター研修に1名、業務創造研修に1名、キャリアディベロップメント研修に2名が参加した。英語研修については、TOEIC 公開テスト受験のサポートを引き続き実施したほか、ホープカレッジ（アメリカの協定校）への海外研修に1名が参加した。

(3) 教育研究の概要

① 教育方針に関する情報

「人材養成上の目的・教育目標」および3ポリシー（カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を改定し、ホームページ等で公開している。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/about/doforothers/policies/>

② 教員の保有学位、業績に関する情報

教員の保有学位や研究業績については、ホームページで公開している。

<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp>

③ 卒業者数、卒業後の進路に関する情報

2019年度の卒業・修了者数（満期退学者含む）、卒業・修了後の進路については、以下の通り。（2020年 5 月 1 日時点）

(大学)

(人)

大 学		合 計			文 学 部			経 済 学 部			社 会 学 部			法 学 部			国 際 学 部			心 理 学 部		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
卒 業 者		1048	1761	2809	77	379	456	351	295	646	150	338	488	323	283	606	73	218	291	74	248	322
進 路 内 訳	就 職 ・ 既 職 者	890	1567	2457	59	332	391	299	265	564	127	305	432	289	245	534	61	197	258	55	223	278
	大 学 院 進 学 者	20	17	37	2	4	6	8	1	9	0	1	1	5	4	9	2	0	2	3	7	10
	大 学 ・ 短 期 大 学 進 学 者	1	3	4	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	1	0	0	0	1	0	1
	専修学校・外国の大学等進学者	8	18	26	2	7	9	4	0	4	0	0	0	0	5	5	2	5	7	0	1	1
	一時的な仕事に就いた者(※1)	9	30	39	0	14	14	6	2	8	1	3	4	0	3	3	1	3	4	1	5	6
	上 記 以 外 の 者(※2)	76	77	153	9	14	23	20	13	33	11	13	24	17	18	35	7	8	15	12	11	23
	不 詳 等 (死 亡 を 含 む)	44	49	93	5	8	13	14	14	28	11	14	25	12	7	19	0	5	5	2	1	3

※1 一時的な仕事に就いた者：卒業後、パート、アルバイトなどの臨時的な収入を目的とした仕事に就いた者。

※2 上記以外の者：卒業後、進学でも就職でもないことが明らかな者。

(例) 進学準備中の者、就職準備中の者、公務員・教員採用試験・国家試験の準備中である者など。

(修士・博士前期課程)

(人)

修 士 ・ 博 士 前 期 課 程		合 計			文 学 研 究 科			経 済 学 研 究 科			社 会 学 研 究 科			国 際 学 研 究 科			心 理 学 研 究 科			法 と 経 営 学 研 究 科		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
修 了 者		26	28	54	5	10	15	0	1	1	4	2	6	0	1	1	6	10	16	11	4	15
進 路 内 訳	就 職 ・ 既 職 者	18	21	39	3	6	9	0	0	0	4	2	6	0	1	1	5	8	13	6	4	10
	大 学 院 進 学 者	4	1	5	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	2
	大 学 ・ 短 期 大 学 進 学 者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	専修学校・外国の大学等進学者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一時的な仕事に就いた者(※1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	上 記 以 外 の 者(※2)	4	6	10	1	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	0	3
	不 詳 等 (死 亡 を 含 む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 一時的な仕事に就いた者：修了後、パート、アルバイトなどの臨時的な収入を目的とした仕事に就いた者。

※2 上記以外の者：修了後、進学でも就職でもないことが明らかな者。

(博士後期課程)

(人)

博 士 後 期 課 程		合 計			文 学 研 究 科			経 済 学 研 究 科			社 会 学 研 究 科			法 学 研 究 科			国 際 学 研 究 科			心 理 学 研 究 科		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
修 了 ・ 満 期 退 学 者		4	4	8	0	0	0	0	0	0	2	2	4	1	0	1	0	0	0	1	2	3
進 路 内 訳	就 職 ・ 既 職 者	3	4	7	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	1	0	0	0	1	2	3
	大 学 院 進 学 者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大 学 ・ 短 期 大 学 進 学 者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	専修学校・外国の大学等進学者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一時的な仕事に就いた者(※1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	上 記 以 外 の 者(※2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不 詳 等 (死 亡 を 含 む)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 一時的な仕事に就いた者：修了後(満期退学含む)、パート、アルバイトなどの臨時的な収入を目的とした仕事に就いた者。

※2 上記以外の者：修了後(満期退学含む)、進学でも就職でもないことが明らかな者。

④ 教育課程に関する情報

各学科・研究科のカリキュラムおよび卒業までの流れ、各授業科目の内容・授業の方法並びに授業計画の概要を記載したシラバスについては、ホームページで公開している。

各学科・研究科のカリキュラムおよび卒業までの流れ <https://www.meijigakuin.ac.jp/academics/>シラバス <https://kyomu.meijigakuin.ac.jp/kyomu/UnSSOLoginControlFree>

⑤ 学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっての基準に関する情報

各授業科目の成績評価の基準については、ホームページで公開している。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/>

⑥ 環境に関する情報

所在地や主な交通手段・キャンパスの概要については、ホームページで公開している。

所在地 <https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/campus.html>交通アクセス <https://www.meijigakuin.ac.jp/access/>キャンパスの概要 <https://www.meijigakuin.ac.jp/campus/>

(4) 管理運営の概要

明治学院大学、明治学院高等学校、明治学院東村山高等学校および明治学院中学校を設置する学校法人明治学院理事会が学校法人の最高決議機関であり、教授任用等の重要事案はすべて理事会の審議事項となっているが、大学の運営については、学校教育法の定める所属職員（教職員）の「統督」者としての学長の権限と機能が十分に尊重されている。

大学における決議機関は、月 1 回開かれる「教授会」および「大学評議会」であるが、学部の改廃等の重要な案件については学長が随時招集する「連合教授会」にて審議されることになっている。上記の決議機関に加え、本学には、各学部の意見調整および教授会への提案事項等を協議する「学部長会」、学長、副学長 4 名、学長室長、大学事務局長、大学事務局次長によって構成され、事実上のガバナンスを行っている「大学執行部会議」があり、前者は月 2 回、後者は毎週開催されている。

このほか、学生部長の諮問機関である「学生部委員会」や教務部長の諮問機関である「教務部委員会」等の「各種委員会」があり、それぞれの専門的な事案を協議している。「各種委員会」でまとめられた重要な案件は、「大学執行部会議」および「学部長会」で検討した後、「教授会」を経て「大学評議会」で決定され、必要に応じて理事会に付議されている。

3 明治学院高等学校

(1) 事業計画

〔教育・研究における重点分野〕

- ① キリスト教教育
- ② カリキュラムの検討と学力の向上
- ③ 生徒の多様な進路実現のための、きめ細かい指導
- ④ 高大連携の推進
- ⑤ 高校校舎改築
- ⑥ 行事・課外活動の充実
- ⑦ 教育研究活動の充実
- ⑧ 探求学習の整備・発展
- ⑨ 国際交流活動の推進
- ⑩ 防災教育・訓練、熱中症対策等の強化

〔生徒の募集計画〕

- ⑪ 入試広報部会を中心とした取り組みの充実
- ⑫ 推薦試験合格者への働きかけ
- ⑬ 2020年度生募集計画、広報活動

〔その他の特記事項〕

- ⑭ いじめ防止対策推進法に基づき、必要な体制を維持する。
- ⑮ 障害者差別解消法に基づき、必要な体制を確立する。
- ⑯ 生徒の学習や生活について、保護者の理解と協力を得るために、2019年度も『保護者の手引き』を作成する。
- ⑰ 事務長を中心に事務をより効率よく行える体制を整える。
- ⑱ 校務全体の検討を行い、業務改善と業務の効率化、選択と集中を行うことで、より教育活動に専念できる体制を構築する。
- ⑲ 大学合格者数の実績

(2) 事業計画の進捗状況

〔教育・研究における重点分野〕

① キリスト教教育

明治学院高等学校は、「隣人を自分のように愛しなさい。」(マタイによる福音書第22章39節)という聖書の御言葉を基盤とし、ヘボン、ブラウン、フルベッキなど学院創立にあたった宣教師の建学の精神を受け継いできた。教育理念は「福音主義キリスト教に基づく人格教育、愛と平和、周囲の人びとを思いやる教育」であり、この教育理念にそって、具体的な活動をすすめてきた。

日々の礼拝はキリスト者専任教職員、講師、学院長、学院牧師、準宣教師(英語礼拝)が中心となっており、月1回を目安にキリスト者ではない教職員によるアッセンブリー(講話)を実施した。また、礼拝暦に基づき、特別礼拝を教会の牧師、学校の教師、社会活動に従事しているキリスト者を招いて実施した。

(a) 特別礼拝

(敬称略)

特 別 礼 拝	講 師
1年イースター礼拝	北川善也(学院牧師)
2年イースター礼拝	小暮修也(学院長)
3年イースター礼拝	村上恵理也(日本基督教団松戸教会牧師)
1年母の日礼拝	高橋安子(本校元教諭)
1年ペンテコステ礼拝	吉本絢香(本校教諭)
2年ペンテコステ礼拝	北川正弥(日本基督教団代々木中部教会牧師・卒業生)
3年ペンテコステ礼拝	北川善也(学院牧師)
1年教育週間礼拝	キャロル・サック(リラ・プレカリア ディレクター)
2年教育週間礼拝	佐々木和之(日本バプテスト連盟国際ミッションボランティア)
3年教育週間礼拝	真鍋孝幸(堀切教会牧師、ともしび会理事長)
1、2年クリスマス礼拝	小豆真人(中日黒教会牧師)
3年クリスマス礼拝	後宮敬爾(霊南坂教会)
3年卒業礼拝	陶山 義雄(本校元教諭)

1年信教の自由を守る日礼拝	平良愛香（日本キリスト教団川和教会牧師）
2年信教の自由を守る日礼拝	星出卓也（日本長老教会西武柳沢キリスト教会牧師）

(b) 生徒と共に起こったキリスト教活動

・聖書について語る会

実施日	テーマ	生徒参加
7月11日	「モーゼ1」	7名
12月18日	「モーゼ2」	1名

・明治学院にかかわる故宣教師・先達者の墓地清掃と墓前礼拝

実施日	場所	参加者
10月28日	瑞聖寺	生徒15名 教員5名

・アドヴェント礼拝

実施日	場所	お話	参加者
11月22日	礼拝堂	林巖雄（本校聖書科教諭）	約250名

・白金クリスマス点灯式（共催）

実施日	場所	参加者
11月22日	礼拝堂	約300名

・宿泊研修会

2019年度は中止

・クリスマス献金の呼びかけ

保護者や生徒へ呼びかけキリスト教福祉団体等25団体へ贈った。

・生徒から受洗者が複数出たので、教員有志から記念品を贈った。

・天皇代替わり行事に関して、5月1日（金）は有志の学習会を行った。また10月22日（火）は通常授業を行った。

(c) 教職員の聖書理解を深める教育活動

活動	実施日	講師・内容
教職員聖書講話	4月4日	清重尚弘（ルーテル世界連盟理事）
聖書を読む会	毎週水曜	教職員自由参加の集まりとして
シェアリング メッセージ ミーティング	不定期	御言葉を共有する教職員有志の集まり

その他、教職員会議は毎回祈りをもって始めた。特に学期初めの教職員会議は讃美歌と祈祷をもって始めた。

(d) 学院オルガニストによるパイプオルガン講座を、生徒10名が受講した。受講生は日々の礼拝の奏楽やアドヴェント礼拝、PTA 主催コンサートなどで演奏した。

(e) からし種（キリスト教活動広報誌）は2019年度5回発行しキリスト教諸行事の理解を深めた。

(f) 1年生に対する教会への導きとして「キリスト教の手引き」に紹介ページを掲載。また、教職員が通っている教会を中心とした案内を夏冬に発行した。

(g) 学院年間聖句の位置づけ

年度最初の教職員会議や入学式保護者説明会、学年PTA、「保護者の手引き」、「学校案内」などで年間聖句を取り上げ、生徒、保護者、教職員への定着を目指した。

② カリキュラムの検討と学力の向上

(a) 1年次では偏りのないカリキュラム、2・3年次では多様な進路を見すえた選択カリキュラムを実施した。

(b) 『学習の手引き2019』（必修及び選択科目の案内）を作成し、事前に教科内容を提示・説明するなど丁寧な指導を心がけた。

(c) 語学への意欲を喚起するためにブックリスト（文庫100冊、新書100冊、英語多読図書100冊など）を作成し、教科と協力して読書指導をすすめた。

(d) 全学年対象に、日常的に教科の苦手な生徒への補習、深く学びたい生徒を対象にした講習、

さらに夏期講習を実施した。3学期の1・2年生対象春期講習については、新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校措置を行ったため実施できなかった。

- (e) 音楽・美術・書道などの芸術科目についても十分に学ぶ時間をとった。また、家庭科において調理実習、被服実習、消費者教育など、社会に出てから役立つような授業も重点に置き実施した。さらに、情報科では22年度の新カリキュラムを見据えてプログラム言語やHTMLの学習を取り入れたり、今後のICT社会で活躍できるような基礎知識の学習などに取り組んだ。
 - (f) 2・3年の選択授業では、生徒の能力を高めるために多彩な授業を展開した。具体的には、様々な文章に接し書くことによって日本語の表現力と読解力をつける「文章表現法」、英語で考え英語を使ってスピーチ・ディベート・ディスカッション・劇などを行なう「English Activities」など様々な授業を行い、生徒の能力を高めてきた。
 - (g) 英語教育の強化のために、2019年度も全学年でGTECを実施した。1年生は事前に冬休み中の課題として英語で『ハンナのかばん』を読み、ユダヤ人少女ハンナ・ブレディがホロコースト（ナチスによるユダヤ人虐殺）の時代をどのように生きたのかを学んだ。そのうえで『ハンナのかばん』の著者、石岡史子さんを招いて、1年生向けに特別授業を行なった（2月）。自由選択では韓国語講座、フランス語講座を実施した。
 - (h) 数学の授業の充実をはかるため、2年生の必修科目において習熟度別授業を実施した。国語科でも選択授業等で緩やかな習熟度別授業を実施した。
- ③ 生徒の多様な進路実現のための指導
- (a) 「一人ひとりを大切にする進路指導」により「生徒のさまざまな夢をサポート」することを基本方針とし、具体的な指導をすすめた。
 - (b) 学年ごとの指導

	指導目標	指導内容	具体的活動	学年通信
1年生	基礎学力を培い視野を広げる	基礎学力の養成に努めるとともに、さまざまな価値観・生き方を知ることによって将来の可能性を広げる	進路ガイダンス、進路適性検査（学びみらいPASS・R-CAP）、全国模擬テストなど	ほっぷ
2年生	個性を確立し、進む道を見つける	自らが将来何をしたいのか、そのための実現方法を考え行動する	卒業生による進路ガイダンス進路適性検査（GAKUTAN）、全国模擬テスト、各大学教員による出張講義など	すてっぷ
3年生	進路の実現に向けて飛躍する	学力の確立に努める	卒業生による進路説明会、明治学院大学学部学科説明会、面接指導、全国模擬テスト、推薦試験説明会、大学入試センター説明会など	じゃんぷ

- (c) 全校の生徒・保護者に向けて『2019年度 進路の手引き』を発行した。
 - (d) 大学入試のための補習・講習を実施すると共に、一人ひとりの進路に合わせた指導を行った。
- ④ 中高大連携の推進
- (a) 明治学院大学系列校特別推薦制度の結果
2019年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により129名、高校3年生全在籍者の43.1%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は、2016年度35.2%、2017年度28.8%、2018年度が38.3%、2019年度が43.1%となっている。
 - (b) 明治学院大学の教員（2019年度は社会福祉学科、経済学科、芸術学科、消費情報環境法学科からの4名）の協力を得て「大学入門講座」を行った。
 - (c) 明治学院大学入学前教育として行われる事前課題の実施、並びに明治学院大学主催「J.C. バラ・プログラム」に大学・東村山高校と協力して取り組んだ。
 - (d) 明治学院大学から教育実習生2名を受け入れ、教育実習を指導した（全教育実習生8名）。
 - (e) 教育ビジョンに基づき、2・3年生対象の法学部ゼミ体験（延べ20名）を行った。
 - (f) 高大接続の一環として明治学院大学入学を志す希望者を対象にTOEFL講座を夏休みに開講した。高校からは16名参加した。
 - (g) 3年生の3学期に生徒のニーズに合わせて本校教諭による特別講座を開き、大学への準備の学習及び教養的学習を行った。
- ⑤ 高校校舎改築
- (a) 仮設校舎を8月に着工し2月に竣工した。その後3月に引越しを実施した。

【校舎改築スケジュール】

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
仮設校舎	建築工事	8月 ← 2月 着工 竣工			
	使用	3月 引越	4月～ ← 8月 使用開始		8月 引越
新校舎	旧校舎解体		4月 ← 8月		
	建築工事	10月 業者決定	9月 ← 8月 着工 竣工		
	使用				8月～ 使用開始

- (b) 新校舎は10月に施工業者を決定して12月から本館・体育館の改修工事、3月から旧校舎の解体工事に着手した。
- (c) 新校舎建築募金の募集を4月から開始した。(目標額：1億円、募集期限：2022年7月)
- (d) 2019年度の建築資金として350百万円を借入調達した。(借入先：日本私立学校振興・共済事業団)
- (e) 体育館及びプール照明のLED化工事を実施した。
- (f) 外部施設使用補助費を予算計上(2百万円)し、外部施設の利用拡大を支援した。

⑥ 行事・課外活動の充実

- (a) 生徒会・委員会活動・クラブ活動など、生徒が自主的に自治活動をすすめて行けるように努めた。水泳大会(6月)、オリーブ祭(9月)、合唱コンクール(10月)、体育祭(10月)など、さまざまな行事は、生徒たちが協働し、自主的にすすめた。
- (b) 学習とクラブ活動(課外活動)のバランスをとって、豊かな高校生活を過ごせるよう指導した。

<部活動等実績>

クラブ名	実 績
軟式野球部	東京都高等学校夏季軟式野球大会東京都大会ベスト16
アメフト部	東京都高校選抜に選手7名とマネージャー2名が選出され、関東高校地区選抜対抗戦STICK BOWL、東西高校地区選抜対抗戦NEW YEAR BOWLにレギュラーとして出場。日本高校選抜に1名選出。アメリカで行われた日本高校選抜とアメリカ高校選抜との対戦するINTERNATIONAL BOWLにレギュラーとして出場。
写真部	全国高等学校総合文化祭(佐賀大会)東京都代表 写真甲子園東京ブロック準決勝進出
ブラスバンド部	東京都吹奏楽コンクール銀賞
サッカー部	東京都大会最終予選進出

- (c) 夏に生徒有志(34名)がYMCAのボランティア(学童保育、こども園)に参加した。また、3年生対象のインターンとして幼稚園の保育実習を3学期に実施し1名が参加した。
- (d) よりきめ細かい指導を充実させるために、長期計画の中で位置づけられている専任教員増員を前倒しで実施(数学科1名)した。
- (e) 生徒を取り巻く教育状況、現代の生徒の心理、本校の生徒の様子について、カウンセリング委員会を定期的に開き、情報交換し、教職員に発信した。
- (f) 教員免許更新の該当者に対して、必要な配慮をし、スムーズな更新ができる環境をつくった。

⑦ 教育研究活動の充実

- (a) 生徒を取り巻く教育環境や現代の生徒の心身の状況について、拡大学年会、PTA学習会、保護者会(全体およびクラスPTA)などを通して、教職員、養護教諭、スクールカウンセラー、保護者がともに学び、話し合う機会をもった。
- (b) 教員免許更新制度の推移を見守りながら、該当者は研修受講が保障されるよう校務の便宜をはかった。

⑧ 探究学習の整備・発展

- (a) 1年生全員が「キリスト教と明治学院」、「明治学院の建学の精神と歴史」をテーマにガイダンス合宿を行い、明治学院とゆかりのある横浜海岸教会、指路教会、ヘボン邸跡、開港資料館などの横浜フィールドワークを実施した。
- (b) 2年生は、「教師と生徒がともに生き方を考えていく独自の体験・研修旅行」を実施した。

下記コースに分かれて1年間の授業と実地研修を行い、探求的な学習を深めた。

- 1) 農作業体験などをしながらの田舎暮らし（新潟県魚沼市） 30人受講
- 2) 長崎の歴史・文化・キリスト教を学ぶ 45人受講
- 3) 沖縄の歴史・文化・自然を学ぶ 130人受講
- 4) 韓国の歴史・文化の学習及び現地の高校生との出会い 38人受講
- 5) 台湾の歴史・文化・キリスト教を学ぶ 44人受講
- 6) 京都の歴史・文化・キリスト教を学ぶ 38人受講

⑨ 国際交流活動の推進

- (a) 3月25日～4月2日でオーストラリア研修を企画していたが、新型コロナウイルス拡散抑止のため中止とした。
- (b) 探究学習の一環として、明治学院高校生と教員が、友好協力校である韓国の京花女子高校・京花 English Business 女子高校を訪問し、合唱や話し合いを通じて豊かな交流の時を持った（8月）。
- (c) 2名の留学生（パナマ、タイ）を迎え、学校生活を共に過ごす中で良い国際交流の時をもつことができた。
- (d) JET（The Japan Exchange and Teaching）Programme を利用した外国語指導助手（ALT）を引き続き任用し、外国語教育の充実と異文化交流の促進を図った。
- (e) ウズベキスタン共和国ナマンガン州教育関係者訪問団を迎え、カリキュラム・施設・運営形態を紹介した（11月）。

⑩ 防災教育・訓練、熱中症対策等の強化

- (a) 東京私立中高協会第二支部と連携し、災害時の情報伝達訓練を実施した（9月）。
- (b) 生徒が3日間生活できることを想定し、災害対策用の備品（食糧、水、マット、災害用ブランケット、簡易トイレ等）を整備し、緊急時に備えた。
- (c) AED（自動体外式除細動器）を要所に設置している。教職員には交替でAEDの講習会を実施した（7月、高輪消防署、参加者今年度10名）
- (d) インフルエンザ感染防止のため、引き続き各洗面所に消毒液の設置、全校生徒分のサージカルマスク、1クラス分の体温計の備蓄、また生徒全員の健康状況の把握に努めた。この備蓄を新型コロナウイルス感染対策に流用した。

〔生徒の募集計画〕

⑪ 入試広報部会を中心とした取り組みの充実

Web 出願制度を2019年度入試より導入し、受験生の利便を図った。

⑫ 推薦試験合格者への働きかけ

基礎学力を向上させるために、推薦合格者に基礎力確認テスト（英数国）を行い、入学前から指導した。

⑬ 2020年度生募集計画・広報活動

- (a) 7月から12月まで月1回の学校説明会を実施した（校内5回。10月は荒天のため中止）。また、キリスト教学校フェア、私学フェア（2回）、地域の説明会及び中学校・塾・予備校の説明会に参加した。
- (b) 過去3年間の入試応募者数

2018年度	2019年度	2020年度
1,247名	1,313名	1,508名

- (c) 学校説明会について
参加者数（組）

2018年度	2019年度	2020年度
2,970組	2,982組	3,008組

生徒による学校紹介『明学トラベラー』の作成、生徒の活動紹介（ハイグリー部・ギター部による演奏、1分間クラブアピール、各クラブ紹介カードの作成）などをおこなった。その他、全教職員が分担し外部説明会に参加し学校紹介に努めた。また、参加者からのアンケートを筆記だけでなく Web でも回収できるようにした。

- (d) ホームページは、更新の頻度を高くし、カリキュラムの紹介、総合学習の紹介、礼拝でのお話、生徒会・クラブ活動、施設・環境、進路指導、生徒募集など、新しい情報を掲載した。
- (e) 2015年度より取り入れた、推薦入試で書類審査の結果一般試験に回った者に10点加算する制度は定着した。これによって推薦入試の応募者が増加傾向にある。

年度	2018年度				2019年度				2020年度			
種別	推薦	一般①	一般②	計	推薦	一般①	一般②	計	推薦	一般①	一般②	計
定員	120	150	60	330	120	150	60	330	120	150	60	330
応募者	246	552	449	1,247	286	654	373	1,313	388	610	510	1,508
受験者	151	520	356	1,027	145	613	286	1,044	150	570	397	1,117
合格者	151	207	96	454	145	199	70	414	150	170	41	361
入学者	151	128	52	331	145	121	54	320	150	120	40	310

〔その他の特記事項〕

- ⑭ いじめ防止対策推進法に基づき、必要な体制を維持する。
いじめ防止対策委員会を開催し情報を共有することで、いじめに至る初期段階から必要な対応を行った。
- ⑮ 障害者差別解消法に基づき、必要な体制を確立する。
障害者差別解消法に対応できるような仮設校舎を建築し、新校舎の設計を進めた。
- ⑯ 『保護者の手引き』を作成する。
生徒の学習や生活について、保護者の理解と協力を得るために、2019年度も『保護者の手引き』を作成した。
- ⑰ 事務長を中心に事務をより効率よく行える体制を整える。
新任職員（嘱託）も含めた事務室の役割分担見直しを実施し、業務の相互補完体制と職員の多能化を進めた。
- ⑱ 校務全体の検討を行い、業務改善と業務の効率化、選択と集中を行うことで、より教育活動に専念できる体制を構築する。
働き方改革を意識するとともに現場の疲労感と疲弊感をどう改善していくのかを、校務運営委員会や教職員会議でも取り上げ話題にした。

〔大学合格者数の実績〕

⑲ 2016～2019年度大学合格者数

現役浪人合計数。（ ）内は理系学部合格者（大学内に理系学部が無い場合はハイフン表示）。
短大・専門学校合格者は除く。

[] 内は一般受験して明治学院大学に合格した数。

(2020年 4月19日現在)

主な私立大学合格校	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
明治学院大学 [一般受験合格者数]	117 (－) [14]	100 (－) [5]	140 (－) [8]	134 (－) [5]
上智大学	13 (4)	24 (2)	14 (3)	27 (2)
慶應義塾大学	11 (0)	11 (1)	3 (0)	14 (0)
早稲田大学	9 (0)	18 (0)	14 (3)	13 (1)
東京理科大学	5 (3)	16 (14)	10 (7)	5 (5)
立教大学	25 (1)	40 (3)	24 (1)	36 (1)
法政大学	23 (4)	41 (7)	33 (5)	28 (6)
青山学院大学	25 (5)	22 (0)	40 (6)	25 (4)
明治大学	21 (5)	40 (6)	23 (1)	17 (2)
中央大学	19 (3)	26 (2)	16 (2)	14 (1)
学習院大学	10 (0)	17 (1)	10 (1)	8 (0)
日本大学	20 (9)	28 (10)	29 (12)	31 (8)
東洋大学	12 (1)	20 (4)	17 (3)	12 (0)
成城大学	21 (－)	8 (－)	13 (－)	14 (－)
専修大学	6 (0)	2 (0)	3 (0)	10 (0)
芝浦工業大学	10 (10)	7 (7)	4 (4)	8 (8)
神奈川大学	6 (2)	6 (2)	6 (1)	5 (0)
成蹊大学	6 (2)	13 (3)	12 (3)	5 (1)
駒沢大学	5 (1)	1 (0)	1 (0)	5 (0)
獨協大学	7 (0)	7 (0)	9 (0)	3 (0)

國學院大学	3 (－)	1 (－)	2 (－)	2 (－)
国際基督教大学	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)
東京女子大学	2 (0)	4 (0)	5 (1)	8 (1)
学習院女子大学	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)
全体の合格者数	475 (104)	571 (109)	559 (94)	563 (72)

その他の主だった大学

東海大学 5 (5)、立命館大学 12 (0)、立命館アジア大学 2 (0)、関西大学 2 (0)、関西学院大学 6 (0)、杏林大学 1 (1)、順天堂大学 1 (1)、東京薬科大学 1 (1)、明治薬科大学 1 (1)、横浜薬科大学 1 (1)、昭和薬科大学 1 (1)、日本赤十字看護 1 (1)、多摩美術大学 3 (0)、日本体育大学 2 (0)、日本女子大学 10 (0)、フェリス女子大学 1 (1)、北里大学 3 (3)

国公立大学合格校	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
東京外語大学	1 (0)			1 (0)
筑波大学			2 (0)	
東京工業大学			1 (1)	
千葉大学	3 (2)		1 (1)	
電気通信大学		2 (2)	1 (1)	
横浜国立大学			1 (0)	
茨城大学			1 (1)	
宮崎大学			1 (1)	
奈良女子大学			1 (0)	
高崎経済大学		1 (0)		
北海道大学	1 (1)			
富山大学	1 (0)			
横浜市立大学	1 (1)			
合 計	7 (4)	3 (2)	9 (5)	1 (0)

4 明治学院中学校・東村山高等学校

(1) 事業計画

〔教育・研究における重点分野〕

- ① キリスト教教育
- ② 学力向上
- ③ キャリア教育
- ④ 進路指導
- ⑤ 中高大の連携推進
- ⑥ 行事・課外活動
- ⑦ グローバル教育
- ⑧ 校地整備
- ⑨ 学校評価
- ⑩ 防災・防犯対策の強化
- ⑪ スクールコンプライアンス

〔生徒の募集計画〕

- ⑫ 募集対策と入試結果

〔その他の特記事項〕

- ⑬ 財政の安定化を目指した収入増加と支出の厳正管理
- ⑭ 卒業生（同窓会員）との繋がり、働きかけの強化
- ⑮ 奨学金の充実

〔大学合格者数の実績〕

- ⑯ 2016～2019年度大学合格者数

(2) 事業計画の進捗状況

〔教育・研究における重点分野〕

① キリスト教教育

学院の建学の精神「キリスト教に基づく人格教育」に従い、「贖罪と愛による教育」を教育理念とし、「道徳人・実力人・世界人の育成」を教育目標に、様々な活動を実践しキリスト教教育の充実に努めた。

(a) 礼拝および講演会

クリスチャン教職員・非常勤講師およびクリスチャンの同窓生等によって礼拝暦に基づき、毎朝20分間の礼拝を守った。2018年度に引き続き、2019年度も学院長が毎月1回、中高交互に奨励を担当し、学院牧師が毎月中高それぞれ1回説教を担当した。2019年度も学院牧師はキリスト教活動委員会にも出席した。

特別礼拝は近隣の教会や学院から牧師・講師を招き、普段の20分間を40分間に延長して献げた。

2学期終業式を兼ねてのクリスマス礼拝は、「クリスマス賛美礼拝」としてクリスマスに読まれる数ヶ所の聖書朗読と讃美歌によって行った。

3月には「東日本大震災を覚える礼拝」を設け、9年目を迎える被災地を覚えて礼拝を守る予定だったが、新型コロナウイルス感染防止措置で休校となったため守ることができなかった。毎月11日に、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会共同作成の祈りのカードを用いて全校生徒で共に祈りを献げた。被災地のための「東京－祈りの輪」は2019年度は9月に開催され、高校生2名が出席した。

また、信教の自由を守る日の講演会を、中学は2月26日に、高校は2月10日に聖公会東京教区の山口千壽司祭を招いて行った。

特別礼拝

(敬称略)

日付	礼 拝	中 学	東村山高校
4/13	※イースター礼拝	竹前治（教団清瀬信愛教会牧師）	吉村謙（教団拝島平安伝道所牧師）
4/20	※家族礼拝	北川善也（学院牧師）	
6/15	※ペンテコステ礼拝	中山仰（改革派田無教会牧師）	小堀昇（改革派花小金井教会牧師）
10/26	※宗教改革記念礼拝	田名希（教団東大和教会牧師）	関野和寛（ルーテル東京教会牧師）
10/30	創立記念礼拝	小滝秀明（学院理事）	小暮修也（明治学院長）
11/16	永眠者記念礼拝	大西哲也（本校副校長）	伊藤節子（本校校長）
11/27	クリスマス点灯式（中高共催）	大西哲也（本校副校長）	
12/20	※クリスマス賛美礼拝	関野和寛（ルーテル東京教会牧師）	田名希（教団東大和教会牧師）

2/26	高校卒業礼拝		安井有介（本校教諭）
3/17	東日本大震災を覚える礼拝		

注) 上記の表中※印の礼拝では献金を行い、総額約100万円を学校周辺の社会福祉施設、神学校、キリスト教諸団体他、合わせて23個所に送金した。

(b) ボランティア活動

- 1) 中学ではボランティア学習と体験を重視した活動を各学年で行った。
- 2) 高校ではフィリピンとの間で22年間 CFJ（Child Fund Japan、旧キリスト教国際精神里親運動）のプログラムに参加している。生徒一人毎月100円の支援金により、クラスで一人のチャイルドを支えた。
- 3) 夏休みにはコイン募金に取り組み、24万円を JOCS（日本キリスト教海外医療協力会）に送った。また、コイン募金の中から8万円をバンコク YMCA を通して、エイズ孤児や人身売買・労働搾取の被害から守られている子供たちの施設「パヤオセンター」のために資金援助した。
- 4) クラブ活動の一環として、中高ハンドベルクワイアが、学校周辺諸教会主催のクリスマス礼拝や伝道礼拝、社会福祉施設等において演奏奉仕を行った。ゴスペル部やブラスバンド部も教会や社会福祉団体の要請で演奏を行った。また、将棋部は小平市高齢者福祉施設にてお年寄りと将棋対局のボランティア活動を行った。
- 5) 東日本大震災被災者支援のために、有志の高校生が被災地でボランティア活動を夏に2回、冬に1回行い、のべ20名が参加した。

(c) キリスト教教育懇談会

近隣教会との連携を深めるために、キリスト教教育懇談会を2回開催した。

第1回 6月17日 38名参加 第1部「本校における日常のキリスト教活動」

第2部 質疑応答

第2回 11月18日 40名参加 第1部「生徒が感じたキリスト教」

第2部「教会とこれからもつながっているためには」

(d) キリスト教教育研修会

第1回 10月2日「『即位の礼』をどう考えるか」（伊藤節子本校校長）

第2回 3月4日「学校礼拝・終礼のあり方について」（曾武川道子本校教諭）休校措置のため実施せず

(e) 生徒のキリスト教懇親会

2018年度に新しい取り組みとして始めた「キリスト教懇親会」を2019年度も開催した。学年を越えて大変良い交わりの会が持てた。

第1回（5月30日）8名 第2回（9月20日）10名 第3回（10月11日）8名

第4回（12月5日）16名

(f) 聖書の授業

中学・高校の新入生には、初めに明治学院の歴史とキリスト教学校で学ぶことの意味を理解させ、新約聖書・旧約聖書・キリスト教史などを学習しながら、生徒が3年ないし6年の間に、自分の人生を聖書のメッセージを通して整えることのできる人間に成長するよう心がけた。また全校生徒に教会出席を促した。また、2019年度から明治学院共通テキスト「ヤバイぜ！聖書（バイブル）」を中1、高1の授業で使用した。

(g) 宿泊研修・修養会

学年行事として修養会や研修旅行を以下のように行った。

学年	場 所	実施日	主 題
中1	富士箱根ランド	6/5-6/7	「明治学院中学校」「友人・先生」「聖書・キリスト教」そして「生命」や「自分自身」との出会いについて考える。
中2	恵みシャレー 軽井沢	6/5-6/7	ヘボン博士の生涯、星野富弘氏の働き、グループワーク、ボランティア学習を通して隣人愛について学ぶ。
中3	広島・京都・ 奈良	9/10-9/13	広島・京都・奈良で平和について考えると共に、日本の伝統文化を学ぶ。
高1	横浜指路教会・御 殿場東山荘	6/5-6/7	ヘボン博士の生き方を通し明治学院について学び、明治学院の生徒としての意識を高める。聖書を学び、隣人愛について考える。グループ活動を通して協力の必要性を学ぶ。
高2	平戸・長崎	6/4-6/7	平戸・長崎にキリスト教の歴史を学ぶと共に、被爆地に平和を学ぶ。

高3	箱根旧街道	6/6-6/7	「私の好きな聖句」を作成しキリスト教と向き合う。神様の恵みと友人の支えに気づき、将来について考える。友人と目標を達成する喜びを分かち合う。
----	-------	---------	---

② 学力向上

(a) 授業の充実

授業の充実を図るため十分な授業時間を確保する必要があり、現行の45分授業を2021年度より50分授業に移行することおよびその時程について決定した。

(b) 中学

- 英語教材としてプログレス21を採用している。その成果として、2学期に実施した全学年でのスピーチコンテストにおいて生徒が自信を持ってスピーチすることができた。英語検定の上位級への合格者数は、準2級32名、2級4名となっている。この教授法で効果をあげるためには家庭学習が大切であり、その指導を厳しく行うことが家庭での学習習慣作りとして他教科の学習にも波及効果が認められる。英語力の客観的な評価を得るために後記 GTEC を全学年で実施している。
- 数学検定は、中1終了時で5級、中2終了時で4級が目標級となっており、そのあと中3で3級、高1で準2級と続く。2019年度は学年終了レベルよりさらに上の級を目指す生徒がおり、中学では10名が上の級に合格している。数学検定は強制ではないが、本校を会場として年3回実施するなど受検を奨励しており、数学の学力向上の励みとなっている。
- 理科と社会では、野外実地踏査により生徒の興味関心を引き出すことに努めた。

学年	場 所	実施日	目 的
中2	理科校外授業（多摩動物公園）	6/18	動物の生態を知り特徴と体形骨格等の相関関係を観察する。
	社会校外授業（東京歴史散歩）	10/1	各人の興味関心を東京の史跡に発見し壁新聞で報告する。
中3	理科校外授業（生田緑地）	11/8	地層・断層等の観察から地史を学ぶ。

(c) 東村山高校

- 数学や英語では習熟度別クラス、少人数クラスの効果的な授業を行うことができた。
- 高校2・3年では進路指導の外部専門業者も活用して学部学科ガイダンスや進路ガイダンスを綿密に行い、明確な職業観をもって自らの進路を開拓できるよう促した。
- プログレス21は中学に引き続いて全ての学年で使用している。英語は「英検2級に合格して卒業」が目標である。更に上位級の準1級に17名の合格者を含め2級以上には212名が合格している。

(d) 学習プログラム

- 2019年度高3生は現行の「学習プログラム」適用の8期生であるが、本プログラムに基づいた高3・高2生徒のコース分けは、系列校推薦コースが2クラス、理系受験コースが1クラス、文系受験コースが3クラスとなった。
- 新しい学習指導要領を基にして、カリキュラム検討委員会を中心に2021年度からの中学のカリキュラムについて検討し、新カリキュラムを作成した。

(e) 外部検定試験の活用

客観的英語教育評価を得るため、中1から高3までを対象に、2019年度も GTEC (Global Test of English Communication) for Students を実施した。

学年	2019年度受験数	2019年度生スコア	テストタイプ
中1	142	242点	CORE
中2	141	344点	
中3	135	425点	
高1	257	520点	STANDARD
高2	259	589点	ADVANCED
高3	258	645点	ADVANCED

(f) 補習講習

学習の遅れた生徒には補習をしており、難度の高い学習を希望する生徒向けには講習を設

定、実施し、生徒のニーズに応えている。長期休暇中に85講座、始業前および放課後を含め年間で約150以上の講座・受験向け講習を実施し、多くの生徒が参加し学習に励むことができた。

(g) ICT教育の充実

ICT教育充実のため、2019年度は高校校舎2階の全教室に電子黒板プロジェクターとスクリーンを設置した。また、より安全に無線ネットワークを運用するためL2ブロッカー（校内ネットワークのセキュリティーシステム）を増設し、BYOD（Bring Your Own Deviceの略自分のデバイスを持ち込む）ネットワークを構築した。さらに2020年度から中学1年と高校1年新入生全員に1人1台タブレット導入を決定し、そのための準備作業に着手した。

(h) 総合学習・総合探究

中学では、学校の日常生活および体育祭や文化祭での自治的活動、また礼拝を含めたキリスト教教育活動その他の諸行事を通して、教育目標である「道徳人、実力人、世界人の育成」の実現のために、総合学習の時間を用いることができた。高校では礼拝で生き方を考えるとともに、キャリアデザイン構築や自分に合った進路選択のためのプログラムを設けて、生徒がそれぞれの進路を拓く力を得ることができるようにした。

③ キャリア教育

(a) キャリアデザイン委員会において、キャリア教育の一環としてのベールフ・プログラムや学校行事の見直しを実施した。

(b) 生徒が自分の「使命（ベールフ）」について考え発見できる機会を提供するため、学院教育ビジョンキャリア支援チームのアクションプランに沿い多様な講師を招き中学および高校でキャリア講演会を実施した。

④ 進路指導

(a) 現行の「学習プログラム」に基づく、進路指導の定例会議を毎週行った。ステージごとの会議を進行するキャリアデザイン担当のまとめ、明治学院大学推薦進学コースのアカデミックリテラシー担当のまとめを加えて、各学年の指導状況、取り組みについて検討した。

(b) 高校生に「進路の手引き」を改訂、配付した。大学受験指導のため、外部専門業者の分析データを活用して、高2・高3教員向けの出願指導研修および数回に亘って模試結果の分析報告を行った。

⑤ 中高大の連携推進

(a) 明治学院大学系列校特別推薦制度の結果

2019年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により107名、高校3年全在籍者の41.5%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は、2016年40.2%、2017年31.3%、2018年43.1%、2019年度41.5%となっている。

(b) 明治学院大学からの教育実習の受け入れ
社会学部1名、経済学部1名、合計2名を受け入れた。

(c) 接続教育の充実

1) 推薦進学コースでは「アカデミックリテラシー」の授業による小論文・面接指導を行った。また、2019年度より、この授業内で実施される大学教員の特別講義が「教養原論」として大学入学後に単位認定されることになった。2019年度は推薦進学コースの80名が受講し、75名が大学の単位を取得することができた。

2) 明治学院大学各学部の入学前教育が行なわれ、入学までの4カ月間、高等教育を受ける準備の時とすることができている。

3) 6月に「明治学院大学学部学科説明会」、2月にはJ.C.バラ・プログラムに参加して大学生活の一端を知ることができた。後者は大学への入学前に大学生活に慣れておく貴重な機会となっている。引率の教職員にも高大接続、一貫教育の意味で有意義な機会である。

4) 高校スピーチコンテストでは本校を卒業した大学生を審査員として招き講評をしていただいた。

5) 「明治学院一貫教育宣言」により、一貫教育の中身を充実していくことを確認している。その具体化の為の教育ビジョンプロジェクトチームに参加し、教育ビジョンの実現に取り組んだ。

6) 学院教育ビジョンの計画に基づき8月に高大接続の一環として開催された系列高校TOEFL講座に19名が参加した。明治学院高校の生徒や上級者は大学生と共に学び英語力の向上に役立った。講座初日の午後には、2019年度より「明治学院高校生・大学生交流会」をSDGsをテーマに実施し、小グループに分かれて活発な意見交換をした。

7) 7月に高3推薦進学コースの生徒を対象に明治学院大学国際センターと連携し留学ガイダンスを実施した。本校卒業生（50期生1名、51期生2名）による体験談と国際センタースタッフより詳しい説明を聞くことができた。

⑥ 行事・課外活動

- (a) 生徒会・委員会活動・クラブ活動などに生徒が自主的に取り組み、充実した学校生活に繋がるよう指導した。また、修養会（6月）、研修旅行（中学9月、高校6月）、体育祭（9月）、文化祭（11月）、中学合唱祭（2月）など様々な行事について、生徒たちが協働し自主的に進めることができた。学校説明会用の学校のクラブ活動紹介映像も作成した。

- (b) クラブ活動（課外活動）の主な実績

1) 中学

クラブ名	実 績
バドミントン部	団体 東京都大会出場
ハンドベル部	TBS こども音楽コンクール東日本大会合奏第1部門 最優秀賞
将棋部	東京都大会団体戦 第3位
男子テニス部	個人 東京都大会出場

2) 東村山高校

クラブ名	実 績
男子バドミントン部	新人戦団体 東京都西ブロック大会 準優勝 団体 東京都西ブロック大会 第3位
ダンス部	第12回日本高校ダンス部選手権関東・甲信越大会 A ブロック 優勝 全国大会出場
野球部	秋季東京都大会出場
美術部	第64回全日本学生美術展 団体 奨励賞（第2位）個人 特選4点、佳作18点

⑦ グローバル教育

- (a) 中学では、夏休みのプログラムとしてカナダ・バンクーバー近郊のアボッツフォードで2週間のサマーキャンプを実施した。参加者は30名（2018年度32名）であった。1ホスト生徒2名のホームステイ形式で2週間を過ごした。

- (b) 高校では、主にアメリカ改革派教会の協力を得てキリスト教信仰に基づいた40日間ホームステイプログラムを実施した。参加者は7名（2018年度14名）であった。また、2019年度はハンドベルクワイアがこのプログラムを継続してくださった教会での感謝のコンサートおよび新しい地域でのコンサートツアーを行った。参加者は13名であった。

高校3年生対象の冬季英語研修は、3週間のプログラムとして改革派の大学であるアイオワ州ノースウェスタン・カレッジにて実施し、2019年度は16名（2018年度17名）が参加した。

- (c) また、高校では1学期にパラグアイ、中国、フィンランドから、2学期からは中国、イタリアから累計5名の留学生を受け入れた。

- (d) 国際交流基金日中交流センター主催の日本高校生訪中事業（8日間）に高校生1名が参加した。

⑧ 校地整備

- (a) 中長期の校舎設備、校地管理の計画に基づき、中学棟3階のトイレ改修、ライシャワー館の屋根・外壁の修繕、プールのブロック塀改修・シャワー温水化、VB（バレー、バスケット）コート改修、中学棟・講堂棟・チャペルの構造調査などを実施した。

- (b) 中学棟、講堂棟、チャペルの建て替えに備え2号基本金への組入れを継続した。

⑨ 学校評価

- (a) 教職員研修 4月4日（木）・5日（金）、11月13日（水）

4月の2日間は、玉川聖学院中等部・高等部元校長 水口洋先生より「特別支援について」の講演会、2018年度の各分掌・学年・教科の年間総括、2019年度の各分掌・学年・教科方針の説明、新年度準備、11月は各分掌・学年・教科の年度中間総括、および2020年度校長方針の説明の後、日本女子大学の坂田仰先生より「学校の危機管理2019—部活動・体罰のリスクマネジメントを中心に—」と題した講演会を行った。

- (b) 在校生卒業時アンケートの実施

高3生を対象とした在校生アンケートを実施し、今後の改善点を確認した。

(c) 地域との交流

- 1) 生徒の安全について、地元警察と私立中高の生活指導担当者間で、情報交換・指導の協力について話し合いを行い、第三者的立場からの評価を頂いた。
- 2) 2007年度から3月最終日曜日に地域住民参加の観桜会を開き、地域との交流の機会としている。2019年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためやむを得ず中止とした。
- 3) 高校運動部の生徒を中心に通学路のゴミ拾いを行い、地元住民との交流を図ることができた。
- 4) 登校時に通学路で実施した登校指導の時間が、近隣住民との直接対話の機会としても機能した。

⑩ 防災・防犯対策の強化

- (a) 火事・地震などを想定した防災訓練を実施した（7月）。東京私立中学高等学校協会第11支部と連携し、災害時の伝達訓練を実施した（9月）。
- (b) AED（自動体外式除細動器）を6箇所に設置しており、AED講習を実施した。
- (c) 生徒個人用備蓄セットを入学時に保護者負担で購入するとともに、災害対策用の備品（食料、水、簡易トイレ、保温シート、工具など）を点検し、1,300名が3日間、学校で避難生活を送ることの出来る態勢となっている。
- (d) 災害等に備えて、サージカルマスク、消毒薬（ウェルパス）の備蓄をした。また発生時の連絡用に一斉メールを運用している。

⑪ スクールコンプライアンス

- (a) いじめ防止対策推進法に基づく対応
「いじめ防止対策基本方針」を改訂するとともに、いじめの早期発見のためのいじめ対策委員会の定例化、学校ポスト、通報のためのスクールサインなど諸方策を実施した。また、迅速かつ組織的な対応が促進されるよう体制面の整備を行った。
- (b) 障害者差別解消法に基づく対応
特別支援委員会を定例的に開催し、支援が必要な生徒の個別支援計画を作成し学年や関係部署と共有するなど組織的な対応をするための体制整備を行った。

〔生徒の募集計画〕

⑫ 募集対策と入試結果

(a) 広報活動

東京私立中学高等学校協会や私塾が主催する合同相談会には、26回延べ110名の教職員を動員して広報活動を行った。11支部理事校として5月27日に行われた11支部合同相談会（京王プラザホテル八王子）の運営に協力した。

また、339件（2018年度254件）の塾訪問、140校（2018年度149校）の中学訪問を行った。

本校では、中学受験生対象の学校説明会を7回、高校受験生対象の学校説明会を4回、中・高合同のオープンキャンパスを7月に、更に塾対象説明会を3回（5月、6月、9月）実施した。学校説明会やオープンキャンパス、文化祭の日程を案内するチラシなどを作成し広報ツールとして活用した。

学校説明会への参加者は、中学受験では延べ1,482組（2018年度1,440組）、高校受験では延べ967組（2018年度827組）となった。また、オープンキャンパスには566組の中高受験生を迎えることができた。

(b) 入試の状況分析

中学入試は、2月1日午後（2科）、2日（4科）、4日（4科）の3回入試となって9年目を迎えた。

2020年度入試は、未だ不透明な部分の多い2021年以降の大学入試改革への漠然とした不安と明治学院大学への進学を希望する受験生の増加などから本校の入試は追い風傾向となり応募を増やした。また、男女共学化以来初めて男子の応募者が各回の入試で女子の応募者を上回った。

高校入試は、推薦入試では過去最高の104名の応募があり67名が合格した。男子運動クラブ推薦による合格者は野球部5名、バドミントン部5名、ラグビー部3名、アメリカンフットボール部1名合計14名であった。

一方、一般入試では推薦入試不合格者の受験者増も影響し、2019年度入試を上回る応募者となった。授業料助成の所得制限緩和は私立高校にとって追い風となっている。

(c) 入試結果

1) 中学

年 度	2018年度				2019年度				2020年度			
日 程	2/1	2/2	2/4	計	2/1	2/2	2/4	計	2/1	2/2	2/4	計
定 員	60	60	20	140	60	60	20	140	60	60	20	140
応 募 者	360	284	221	865	417	302	247	966	429	346	277	1,052
受 験 者	347	165	83	595	405	202	102	709	411	245	145	801
合 格 者	192	92	16	300	180	91	13	284	156	102	29	287
入 学 者	74	59	11	144	73	59	13	145	49	72	23	144

2) 東村山高校

年 度	2018年度		2019年度		2020年度	
入 試	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般
定 員	50	70	50	70	50	70
応 募 者	90	255	72	202	104	226
受 験 者	67	233	61	183	67	203
合 格 者	67	121	61	121	67	101
新入学者	67	70	61	63	67	65
移 行 生	124		134		128	
総入学者	261		258		260	

(d) Web による手続の適用範囲拡大

中学の出願手続、中学・高校の合格発表および入学手続に加え、高校の出願手続についても Web による手続に移行した。

〔その他の特記事項〕

⑬ 財政の安定化を目指した収入増加と支出の厳正管理

- (a) (株) 明治学院サービスの有効活用による経費削減と、教室貸し出しによる収入確保を図った。また、入試広報の効果を兼ねて、高校受験模擬試験の会場提供を2011年度から継続実施した。
- (b) 事務室は、より効率的な事務処理体制の構築を目指す中、職員が一体となって財政の管理運用、取引先との契約内容の見直し等による経常支出の削減、効率のよい予算執行、中長期資金計画・施設管理計画の見直し等、将来を見据えた校務運営にも努めた。

⑭ 卒業生（同窓会員）との繋がり、働きかけの強化

11月3日（ヘボン祭）に東村山同窓会の主催による同窓生講演会（銀河鉄道株式会社 代表取締役 山本宏昭氏、テーマ「夢だけで作った小さなバス会社」）が開かれた。当日は、学校企画の34、35期生の集まりが開催され旧交を温めた。同窓会からは、高校卒業生に記念万年筆、クラブ活動に対する援助金および1月13日に本校で開催された卒業生の「成人の集い」に祝い金が贈られた。

⑮ 奨学金の充実

就学支援の一環として奨学金の充実に努めた。学院のぶどうの木奨学基金に中学生が支給対象として追加され2020年度から運用が開始されることとなった。また、中学校・東村山高等学校同窓会による奨学金制度についても2020年度からの実施が決定した。

〔大学合格者数の実績〕

⑩ 2016～2019年度大学合格者数

現役浪人合計数。() 内は理系学部合格者 (大学内に理系学部が無い場合はハイフン表示)。
短大・専門学校合格者は除く。

[] 内は一般受験して明治学院大学に合格した数。

(2020年 4月 7日現在)

主な私立大学合格校	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
明治学院大学 [一般受験合格者数]	102 (－) [2]	79 (－) [0]	109 (－) [1]	112 (－) [3]
法政大学	16 (1)	16 (1)	17 (2)	20 (7)
日本大学	20 (6)	14 (3)	18 (9)	18 (6)
青山学院大学	9 (0)	4 (0)	11 (1)	12 (1)
武蔵野美術大学	19 (0)	3 (0)	3 (0)	11 (1)
中央大学	10 (2)	16 (0)	13 (1)	10 (2)
芝浦工業大学	7 (7)	4 (4)	3 (3)	11 (11)
成蹊大学	11 (2)	11 (2)	9 (1)	9 (3)
東洋大学	23 (7)	15 (1)	10 (3)	9 (5)
多摩美術大学	11 (0)	3 (0)	6 (0)	9 (1)
上智大学	9 (1)	3 (1)	3 (1)	8 (2)
立教大学	11 (0)	16 (1)	10 (0)	8 (0)
東京理科大学	6 (5)	2 (1)	5 (4)	7 (5)
学習院大学	9 (0)	7 (1)	6 (0)	7 (2)
専修大学	6 (－)	6 (－)	6 (－)	7 (－)
明治大学	2 (0)	10 (0)	7 (0)	6 (4)
慶応義塾大学	1 (0)	1 (0)	1 (0)	4 (0)
成城大学	19 (－)	8 (－)	6 (－)	3 (－)
東京農業大学	2 (2)	8 (8)	4 (4)	3 (3)
東京薬科大学	2 (2)	2 (2)	4 (4)	3 (3)
立命館大学	1 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)
早稲田大学	4 (0)	5 (0)	1 (0)	2 (0)
駒澤大学	5 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)
津田塾大学	1 (0)	6 (0)	5 (0)	2 (0)
東京女子大学	5 (0)	11 (2)	6 (0)	2 (0)
日本女子大学	5 (1)	6 (0)	3 (0)	2 (0)
国際基督教大学	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)
その他	129 (42)	126 (32)	108 (48)	101 (32)
合 計	446 (78)	386 (59)	381 (81)	391 (87)

国公立大学合格校	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
東京学芸大学	1 (0)			1 (0)
金沢大学				1 (1)
電気通信大学				1 (1)
首都大学東京		1 (1)		1 (1)
東京農工大学			1 (1)	
室蘭工業大学		1 (1)	1 (1)	
埼玉大学			1 (1)	
山形大学			1 (1)	
信州大学			1 (1)	
東北大学		1 (1)		
北見工業大学		1 (1)		
合 計	1 (0)	4 (4)	5 (5)	4 (3)

第3章 2019年度財務の概要と経年比較〈2015年度～2019年度〉

1 財産目録

資産総額	114,908	百万円
1 基本財産	49,199	百万円
2 運用財産	65,709	百万円
負債総額	9,428	百万円
純資産	105,480	百万円

(単位：百万円)

区 分	2019年度末	
資産額		
1 基本財産		
土地	347,072㎡	17,069
建物	151,045㎡	18,908
建物付属設備	905件	4,526
構築物	357件	1,446
図書	1,201,449冊	5,508
教具・校具・備品	41,394点	1,192
その他		547
2 運用財産		
現金預金		5,771
その他		59,937
資産総額	114,908	
負債額		
1 固定負債	5,246	
長期借入金	352	
退職給与引当金	4,890	
長期未払金	3	
2 流動負債	4,181	
短期借入金	90	
その他	4,090	
負債総額	9,428	
純資産	105,480	

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

2 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
資産の部					
固定資産	96,680	99,585	102,340	105,367	108,642
有形固定資産	48,405	48,663	48,611	48,479	49,199
土地	16,814	17,005	17,069	17,069	17,069
建物（含付属設備）	24,048	23,782	23,500	23,284	23,435
構築物	1,208	1,571	1,674	1,565	1,446
教育研究機器備品	890	871	875	962	1,116
管理用機器備品	79	46	45	55	76
図書	5,332	5,379	5,425	5,496	5,508
その他	30	7	20	46	547
特定資産	47,951	50,641	53,549	56,490	59,074
第2号基本金引当資産	13,228	13,401	13,800	14,825	14,995
第3号基本金引当資産	5,983	7,128	8,443	9,468	10,468
退職給与引当特定資産	5,047	5,014	4,964	4,929	4,890
国際交流引当特定資産	2	2	1	2	2
チャペルオルガン引当特定資産	24	20	16	11	—
減価償却引当特定資産	19,779	21,203	22,527	23,880	25,332
山岳事故緊急対策特定資産	11	11	11	11	11
法人基金引当特定資産	3,088	3,088	3,087	3,085	3,081
創立150周年記念寄付引当特定資産	502	486	415	—	—
日本近代音楽館引当特定資産	193	193	193	193	193
その他の引当特定資産	89	89	86	80	97
その他の固定資産	323	280	179	397	368
長期貸付金	108	100	54	48	42
その他	214	180	124	348	325
流動資産	7,189	6,917	6,796	6,721	6,266
現金預金	5,926	6,086	5,974	5,467	5,771
有価証券	667	—	—	500	—
その他	595	831	821	753	494
資産の部合計	103,869	106,503	109,136	112,088	114,908

負債の部					
固定負債	5,602	5,408	5,202	5,028	5,246
長期借入金	547	387	226	92	352
退職給与引当金	5,047	5,014	4,964	4,929	4,890
長期未払金	7	6	11	7	3
流動負債	4,130	4,379	4,058	4,162	4,181
短期借入金	161	161	161	135	90
前受金	2,662	2,836	2,569	2,490	2,506
その他	1,306	1,381	1,327	1,536	1,584
負債の部合計	9,733	9,788	9,261	9,190	9,428
純資産の部					
基本金	100,959	103,327	105,995	108,661	110,783
第1号基本金	80,537	81,602	82,526	83,124	84,068
第2号基本金	13,228	13,401	13,800	14,825	14,995
第3号基本金	5,983	7,128	8,443	9,468	10,468
第4号基本金	1,210	1,194	1,224	1,242	1,249
繰越収支差額	△ 6,823	△ 6,612	△ 6,120	△ 5,763	△ 5,302
翌年度繰越収支差額	△ 6,823	△ 6,612	△ 6,120	△ 5,763	△ 5,302
純資産の部合計	94,136	96,714	99,874	102,898	105,480
負債及び純資産の部合計	103,869	106,503	109,136	112,088	114,908

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆貸借対照表についての説明

- 貸借対照表：学校法人明治学院の財政状況が健全であるかどうか、また教育・研究のために必要な資産を保有しているかを表している。
- 資産：2019年度末の資産合計は、114,908百万円となり、前年度比2,819百万円（2.5%）増加した。
- 資産の内訳：固定資産は108,642百万円となり、前年度比3,275百万円（3.1%）増加した。その中で、将来の特定の支出に備えるために資金を留保している「特定資産」が前年比2,584百万円（4.6%）増加した。流動資産は、6,266百万円となり、前年度比455百万円（6.8%）減少した。
- 負債：2019年度末の負債合計は、9,428百万円となり、前年度比237百万円（2.6%）増加した。
- 借入金：2019年度に135百万円の借入金を返済したが、新たな借入金351百万円が発生したため、年度末における長期と短期を合わせた借入金残高は443百万円となった。また借入金利息として2百万円（前年度比2百万円減）を支払った。
- 基本金：2019年度末合計は110,783百万円となり、前年度比2,121百万円（2.0%）増加した。
- 純資産の部：学校法人を永続的に維持するために保持しなければならない純資産（基本金＋翌年度繰越収支超過額）が、105,480百万円となり、前年度比2,582百万円（2.5%）増加した。

3 資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
資金収入の部					
学生生徒等納付金収入	14,534	14,882	15,369	15,211	14,995
手数料収入	755	801	904	842	731
寄付金収入	129	142	124	134	168
補助金収入	1,603	1,572	1,679	1,764	1,917
国庫補助金	878	810	828	912	1,057
地方公共団体補助金	725	761	850	851	859
その他補助金	-	-	-	-	-
資産売却収入	21,162	15,252	10,426	8,765	16,881
付随事業・収益事業収入	195	194	194	197	208
受取利息・配当金収入	990	1,008	1,124	1,080	1,122
雑収入	468	634	532	557	407
借入金等収入	1	1	1	1	351
前受金収入	2,662	2,836	2,569	2,490	2,506
その他の収入	2,257	810	893	1,154	1,163
資金収入調整勘定	△ 2,966	△ 3,243	△ 3,329	△ 3,039	△ 2,864
当年度資金収入合計	41,795	34,893	30,491	29,160	37,589
前年度繰越支払資金	5,586	5,926	6,086	5,974	5,467
資金収入の部合計	47,381	40,819	36,577	35,134	43,057
資金支出の部					
人件費支出 (内、退職金支出)	9,905 (373)	10,063 (518)	9,943 (426)	9,966 (431)	9,858 (242)
教育研究経費支出	3,809	4,089	4,346	4,462	4,519
管理経費支出	980	1,050	1,043	992	1,100
借入金等利息支出	15	11	8	5	2
借入金等返済支出	210	161	161	162	135
施設関係支出	1,238	1,367	1,031	813	1,675
設備関係支出	313	330	340	650	549
資産運用支出	24,858	17,618	13,567	12,739	19,456
その他の支出	809	759	813	687	832
資金支出調整勘定	△ 686	△ 719	△ 652	△ 814	△ 844
当年度資金支出合計	41,454	34,733	30,603	29,666	37,285
翌年度繰越支払資金	5,926	6,086	5,974	5,467	5,771
資金支出の部合計	47,381	40,819	36,577	35,134	43,057

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆資金収支計算書についての説明

- 資金収支計算書：2019年度中の諸活動に対応するすべての資金の収入と支出の内容を明らかにする計算書である。
- 当年度資金収入合計：2019年度は、37,589百万円となり、前年度比8,429百万円（28.9%）増加した。
- 資金収入の部合計：前年度繰越支払資金5,467百万円を加えた資金収入の部合計は43,057百万円となった。
- 当年度資金支出合計：2019年度の資金支出の合計額は37,285百万円となり、前年度比7,618百万円（25.7%）増加した。
- 翌年度繰越支払資金：資金収入の部合計と当年度資金支出合計の差額が翌年度繰越支払資金となる。2019年度は5,771百万円の繰越をすることになり、前年度より304百万円増加した。

4 活動区分資金収支計算書

(単位: 百万円)

科 目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	14,534	14,882	15,369	15,211
		手数料収入	755	801	904	731
		特別寄付金収入	95	126	111	120
		經常費等補助金収入	1,564	1,456	1,563	1,754
		付随事業収入	195	194	194	197
		雑収入	468	634	532	557
	教育活動資金収入計		17,614	18,096	18,675	18,684
	支出	人件費支出	9,905	10,063	9,943	9,966
		教育研究経費支出	3,809	4,089	4,346	4,462
		管理経費支出	980	1,050	1,043	992
施設整備等活動による資金収支	教育活動資金支出計		14,694	15,203	15,332	15,421
	差引		2,919	2,892	3,343	3,262
	調整勘定等		248	83	△ 268	21
	教育活動資金収支差額		3,168	2,976	3,074	3,283
	収入	施設設備寄付金収入	34	15	12	13
		施設設備補助金収入	38	115	115	9
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	-	252	-	-
		施設整備等活動資金収入計	73	383	128	23
	支出	施設関係支出	1,238	1,367	1,031	813
		設備関係支出	313	330	340	650
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	428	425	399	1,025
		減価償却引当特定資産繰入支出	-	-	-	1,352
その他活動による資金収支	施設整備等活動資金支出計		1,979	2,123	1,770	3,842
	差引		△ 1,906	△ 1,740	△ 1,642	△ 3,818
	調整勘定等		10	△ 73	28	81
	施設整備等活動資金収支差額		△ 1,895	△ 1,813	△ 1,613	△ 3,737
	小計 (教育活動資金収支差額 + 施設整備等活動資金収支差額)		1,272	1,163	1,460	△ 453
	収入	借入金等収入	1	1	1	1
		有価証券売却収入	21,162	15,252	10,426	8,765
		その他の資産売却収入	-	-	-	-
		保証金精算収入	-	-	-	-
		貸付金回収収入	31	20	48	26
		退職給与引当特定資産取崩収入	120	66	84	104
		国際交流引当特定資産取崩収入	4	0	0	0
		チャペルオルガン引当特定資産取崩収入	12	4	4	4
		年金引当特定資産取崩収入	1,466	-	-	-
		減価償却引当特定資産取崩収入	-	-	67	-
		法人基金引当特定資産取崩収入	-	-	1	2
		その他の引当特定資産取崩収入	3	4	3	5
		創立150周年記念寄付引当特定資産取崩収入	-	15	70	415
		立替金回収収入	-	-	-	45
		仮払金精算収入	-	-	-	0
		預け金回収収入	13	12	14	15
その他活動による資金収支	支出	預り金受入収入	20	47	16	42
		仮受金受入収入	13	-	-	-
		小計	22,849	15,426	10,740	9,429
		受取利息・配当金収入	990	1,008	1,124	1,080
		その他の活動資金収入計	23,839	16,434	11,864	10,509
		借入金等返済支出	210	161	161	162
		有価証券購入支出	21,747	14,584	10,426	9,265
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	1,145	1,145	1,315	1,025
		退職給与引当特定資産繰入支出	78	34	34	69
		国際交流引当特定資産繰入支出	1	0	0	1
		減価償却引当特定資産繰入支出	1,450	1,423	1,391	-
		その他の引当特定資産繰入支出	0	4	-	-
		貸付金支払支出	11	12	15	17
		立替金支払支出	87	42	65	-
		仮払金支払支出	0	0	0	-
		預け金支払支出	13	14	15	15
その他活動による資金収支	収入	仮受金支払支出	-	2	1	0
		小計	24,754	17,426	13,428	10,556
		借入金等利息支出	15	11	8	5
		その他の活動資金支出計	24,770	17,438	13,437	10,562
		差引	△ 930	△ 1,003	△ 1,572	△ 52
		調整勘定等	0	0	0	0
		その他の活動資金収支差額	△ 931	△ 1,003	△ 1,572	△ 52
		支払資金の増減額 (小計 + その他の活動資金収支差額)	340	159	△ 111	△ 506
		前年度繰越支払資金	5,586	5,926	6,086	5,974
		翌年度繰越支払資金	5,926	6,086	5,974	5,467

5 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

		科 目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	14,534	14,882	15,369	15,211	14,995
		手数料	755	801	904	842	731
		寄付金	95	126	111	120	142
		経常費等補助金	1,564	1,456	1,563	1,754	1,831
		国庫補助金	840	702	743	912	985
		地方公共団体補助金	724	754	819	841	845
		その他補助金	－	－	－	－	－
		付随事業収入	195	194	194	197	208
		雑収入	469	639	533	596	432
	教育活動収入計		17,615	18,101	18,677	18,723	18,342
	支出	人件費	9,864	10,035	9,893	9,970	9,844
		(内退職給与引当金繰入額)	(332)	(491)	(376)	(436)	(228)
		教育研究経費	5,125	5,392	5,644	5,736	5,892
		(内減価償却費)	(1,316)	(1,302)	(1,298)	(1,273)	(1,373)
管理経費		1,114	1,171	1,136	1,073	1,177	
(内減価償却費)		(133)	(120)	(93)	(79)	(77)	
徴収不能額		－	－	－	－	－	
教育活動支出計		16,104	16,599	16,675	16,780	16,915	
教育活動収支差額		1,510	1,502	2,002	1,943	1,426	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	990	1,008	1,124	1,080	1,122
		その他の教育活動外収入	－	0	－	－	－
		教育活動外収入計	990	1,008	1,124	1,080	1,122
	支出	借入金等利息	15	11	8	5	2
		その他の教育活動外支出	－	0	－	－	－
		教育活動外支出計	15	11	8	5	2
		教育活動外収支差額	974	996	1,116	1,074	1,119
経常収支差額		2,485	2,498	3,118	3,018	2,546	
特別収支	収入	資産売却差額	－	0	－	－	0
		その他の特別収入	79	138	138	37	127
		施設設備国庫補助金	38	108	84	－	72
		施設地方公共団体補助金	0	6	31	9	14
		その他	40	23	22	21	40
		過年度修正額	－	－	0	6	－
		特別収入計	79	138	138	37	127
	支出	資産処分差額	58	58	86	32	91
		その他の特別支出	－	－	9	－	－
		特別支出計	58	58	96	32	91
特別収支差額		20	79	41	5	35	
基本金組入前当年度収支差額		2,505	2,578	3,160	3,023	2,582	
基本金組入額		△ 2,319	△ 2,383	△ 2,667	△ 2,666	△ 2,121	
当年度収支差額		186	195	492	357	461	
前年度繰越収支差額		△ 7,011	△ 6,823	△ 6,612	△ 6,120	△ 5,763	
基本金取崩額		1	15	－	－	－	
翌年度繰越収支差額		△ 6,823	△ 6,612	△ 6,120	△ 5,763	△ 5,302	
事業活動収入計（旧 帰属収入）			18,684	19,249	19,940	19,842	19,592
事業活動支出計（旧 消費支出）			16,178	16,670	16,780	16,818	17,009

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆事業活動収支計算書および基本金についての説明

- 学生生徒等納付金：学則や募集要項で所定の額を納入すべき旨が記載されているもので、授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金等がある。2019年度は学院全体で14,995百万円となり、前年度比215百万円（1.4%）減少した。
- 手数料：入学検定料が主な収入である。2019年度は731百万円となり、志願者数が減少したため前年度比110百万円（13.1%）減少した。
- 補助金：国庫補助金と地方公共団体補助金が主な収入である。2019年度は学院全体で1,831百万円となり、前年度より76百万円（4.4%）増加した。主な要因は、大学の経常費補助金の増加である。
- 事業活動収入計：学校法人の収入のうち、負債とならない収入の総額である事業活動収入計は、19,592百万円となり、前年度より249百万円（1.3%）減少した。
- 人件費：2019年度は職員人件費が93百万円減少したことなどにより、人件費総額は9,844百万円となり、前年度比126百万円（1.3%）減少した。
- 教育研究経費：2019年度の教育研究経費は5,892百万円となり、前年比156百万円（2.7%）増加した。
- 事業活動支出計：2019年度の事業活動支出計は17,009百万円となり、前年比191百万円（1.1%）増加した。
- 当年度収支差額：2019年度は461百万円の収入超過となり、前年比103百万円（29.1%）増加した。
- 基本金の種類と目的：第1号基本金は、学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために取得した固定資産の価額で、2019年度末で84,068百万円（前年度比943百万円増）となる。
第2号基本金は学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために将来取得する固定資産の取得に充てる資産額で、2019年度末で、14,995百万円（前年度比170百万円増）を保有している。
第3号基本金は、基金の運用から得られる果実を奨学金等の特定の目的に充てるために、基金として継続的に保持する資産額で、2019年度末には10,468百万円（前年度比1,000百万円増）を保有している。
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金額で「人件費＋教育研究経費＋管理経費＋借入金利息」の合計の1/12（1ヵ月分）となっている。2019年度末には1,249百万円（前年度比6百万円増）を保有している。

6 財務比率検証

(1) 財務比率について

2019年度決算数値による財務比率は下記のとおりである。

《2019年度事業活動収支計算書関係比率》

比率名称	指標	2019年度 本学決算	2018年度 大学法人平均
① 人件費比率 (人件費／経常収入)	▼	50.6%	【48.5%】
② 人件費依存率 (人件費／学生生徒等納付金)	▼	65.7%	【76.4%】
③ 教育研究経費比率 (教育研究経費／経常収入)	△	30.3%	【38.4%】
④ 管理経費比率 (管理経費／経常収入)	▼	6.1%	【6.7%】
⑤ 基本金組入後収支比率 (事業活動支出／(事業活動収入－基本金組入額))	▼	97.4%	【103.6%】
⑥ 学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金／経常収入)	△	77.0%	【63.5%】

《2019年度貸借対照表関係比率》

比率名称	指標	2019年度 本学決算	2018年度 大学法人平均
① 純資産構成比率 (純資産／負債＋純資産)	△	91.8%	【86.2%】
② 固定比率 (固定資産／純資産)	▼	103.0%	【102.1%】
③ 流動比率 (流動資産／流動負債)	△	149.9%	【211.3%】
④ 負債比率 (総負債／純資産)	▼	8.9%	【16%】
⑤ 退職給与引当特定資産保有率 (退職引当特定資産／退職給与引当金)	△	100.0%	【64.8%】
⑥ 基本金比率 (基本金／基本金要組入額)	△	99.8%	【97.1%】

※【 】内は学生数10,000人以上の私立大学法人平均

(私学事業団資料による)

※指標：一般的な評価「△：高い値が良い」「▼：低い値が良い」

(2) 点検・評価および改善目標について

(特長)

- ・事業活動収支計算書関係比率の中で特に、学生生徒等納付金比率が私学事業団大学法人平均を大きく上回っている。このことは私立学校としての本分である授業料等の収入が主体で運営されている、いわば財政的に健全体質である証ともいえる。
- ・借入金を計画的に返済してきた結果、順調に負債比率を改善することができ、私学事業団大学法人平均値を下回っている。
- ・12種類の財務比率の中で、8つの比率で私学事業団大学法人平均より優位な数値となっている。

(課題)

- ・教育研究経費比率については、昨年度より上昇し30%を上回ったものの、平均値までは到達しなかった。
- ・学生生徒等納付金比率が高いことの裏返しで、それ以外の収入の比率が低いといえる。学生生徒等納付金以外の事業活動収入項目を模索する必要がある。

(改善目標)

- ・人件費比率は50.6%となった。人件費構造の見直しについては今後も検討課題であるため、引き続き抜本的改革の実施を検討する。
- ・教育研究経費比率をさらに向上させ、教育研究に寄与する財政構造となることを目指す。
- ・学生生徒等納付金以外の収入を増やし、より充実した財政基盤の確立を図る。

7 監事による監査報告書

「監事監査報告書」

2020年 5 月29日

学校法人 明治学院
理 事 会 御中

私たち学校法人明治学院監事 永嶺 雄三、辻 泰一郎は、私立学校法第37条第3項および寄附行為第23条の定めに従い、2019年4月1日から2020年3月31日までの本法人の業務および財産の状況を監査しました。その結果について下記のとおりご報告いたします。

1. 監査方法の概要

監事は、開催される全ての常務理事会、理事会、評議員会に陪席いたしました。

また、理事・監事・評議員懇談会に出席し、さらに理事長、学院長、学長、高校長、中学・東村山高校長、総務担当理事、財務理事などの業務執行理事にヒアリングを行いました。それらを通じて法人の現況ならびに将来の展望（事業計画）や入試、就職、明治学院教育ビジョン、補助金の採択状況、法人の法務関連の対応状況、および財務の状況について把握するように努めました。

監査の実施にあたっては、会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人から報告および重要事項についての説明を受けて意見の交換をし、またその実査にも立ち会いました。さらに業務監査を実施し、重要な決裁書類の提出を受けてこれを閲覧し、監査しました。

2. 監査の結果

- (1) 法人の業務に関しては、不正の行為がなく、かつ、法令及び寄附行為に違反する重大な事柄はなく、建学の精神に立ってすぐれた教育を実践するために、妥当で有効な運営が行われていると認めました。
- (2) 法人の財産の状況に関しては、報告されている資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表は適正であり、法令及び寄附行為に従って法人の財産及び資金・事業活動収支の状況を正確に示しており、財産運用の健全性と透明性を確保していると認めました。
- (3) 理事の業務執行に関しては、上記(1)および(2)を踏まえ適正に行われていると認めました。

学校法人明治学院

監 事 永 嶺 雄 三 ⑩

監 事 辻 泰一郎 ⑩

明 治 学 院 広 報 （ 別 冊 ）

編集 法人事務室 （内線5167）

発行責任者 理事長 山崎 雅男



